



新潟空手ドリームプラン

令和 5(2023)年度～令和 14(2032)年度



新潟県空手道連盟

<https://www.jkf-niigata.net/>



新潟県空手道連盟

「新潟空手ドリームプラン」名称、愛称、ロゴのいきさつ

■プランの名称・・・「新潟空手ドリームプラン」

■プランの愛称・・・「NKDP」

プランの名称、愛称は会員アンケートにより決定しました。

愛称の「NKDP」は「新潟空手ドリームプラン」の頭文字をとっています。

■プランの「ロゴ」について

ワーキンググループにより、新潟の風景をモチーフにした、デザイン案を作成、令和5年3月26日開催の評議員会で役員、評議員の投票により決定しました。

- ・赤色のNKDPは、太陽を表し、NKDPを推進する源の表れ。
- ・緑色は、新潟の大地、田園を表し、私達が生かされるこの大地を大切に、感謝する気持ちの表れ。
- ・青色は、新潟の雄大な山並みで、頂上を目指してがんばる気持ちの表れ。
- ・白色は、空、空手道の空(くう)を表し、空手の修行に終わりはなく、無心を目指す気持ちの表れ。



目 次

第1章 計画の策定にあたって

1	計画策定の趣旨	2
2	計画の位置づけ	3
3	計画の期間	4
4	空手道の範囲	5
5	空手道の持つ役割や意義	5
6	SDGs(持続可能な開発目標)との関係	6

第2章 空手道を取り巻く現状と課題

1	社会情勢の変化	8
2	県連の現状と課題	14
3	県連の特徴・強み	19

第3章 県連の理念・県連像・基本方針

1	県連の理念	27
2	目指す県連像	28
3	基本方針	29

第4章 計画の推進

- 1 計画の体系 3 4
- 2 基本施策・実施事業 3 7
- 3 計画の進行管理・推進組織 4 2

第5章 参考資料

- 1 会員アンケート調査の結果 4 4
- 2 空手道組織構成 5 2
- 3 県連ワーキンググループメンバー 5 3
- 4 県連役員名簿 5 4
- 5 県連所属団体名簿 5 5

第1章

計画の策定にあたって



1 計画策定の趣旨

新潟県空手道連盟(以下、「県連」という)は、先人たちの尽力、会員、関係各位の尽力により、昭和41年(1966)年に設立し、歩を進め、発展して来ました。平成21(2009)年に第64回国民体育大会「ときめき新潟国体」、平成25(2013)年に第39回全国高等学校空手道選手権大会(インターハイ)、平成28(2016)年には全国中学生空手道選手権大会が開催され、関係する団体、組織との連携、協力を図りながら成功に導いたことは、全国レベルの大会を確実に実行出来る、組織力があることを示しました。

そして、平成28(2016)年には、公益財団法人全日本空手道連盟(以下、「全空連」という)から笹川会長はじめ関係各位のご列席をいただき、ホテルオークラ新潟にて創立50周年の記念式典を盛大に開催することが出来ました。

空手界は、長年の悲願であったオリンピック種目入りを果たし、令和3(2021)年に第32回オリンピック競技大会(以下、「東京2020オリンピック」という)で空手道が世界中に発信されました。東京2020オリンピックを直前に控えた令和2(2020)年、新型コロナウイルス感染拡大の影響で東京2020オリンピックは1年延期、また、さまざまなスポーツイベント、競技大会の延期・中止を余儀なくされました。外出の自粛や交流の制限が求められ、日常の運動・スポーツ活動にも大きな影響が及びました。

そのような中でも、令和3(2021)年に開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等での日本代表選手はじめ世界中のアスリートの活躍を通じて、スポーツの「人々の心を動かす力」や「楽しさ」を再確認することができました。残念ながら、令和6(2024)年のパリ2024オリンピックでは、空手競技の採用は実現せず、世界の空手道の統括組織である世界空手道連盟(以下、「WKF」という)は、令和10(2028)年ロサンゼルスオリンピックでの正式競技採用に向けて取り組んでいます。

我が国のスポーツ界の方向性としては、文部科学省が第3期スポーツ基本計画を令和4(2022)年3月25日に策定し、各主体の役割を示しています。それを受けて新潟県は、新潟県スポーツ推進計画(平成28年～令和6年)を改定しています。また、日本の空手道の統括組織である全空連は、東京2020オリンピックを終え、令和4(2022)年12月に中長期計画を策定しました。このような中、今、県連に求められる役割は何か。何を理念とし、何を目標に歩んで行くのか。現状を見ると、会員数や指導者数の減少、競技力の低下、県連全体の活力の低下等、様々な課題がある中、あらためて目指すべき県連像や役割、目標を明確にした上で、それらの課題を解決するための方針を立て、理念の実現に向けて県連が一丸となって取り組むための中長期的な「新潟空手ドリームプラン」を策定しました。



新潟県空手道連盟
会長 野沢慎吾

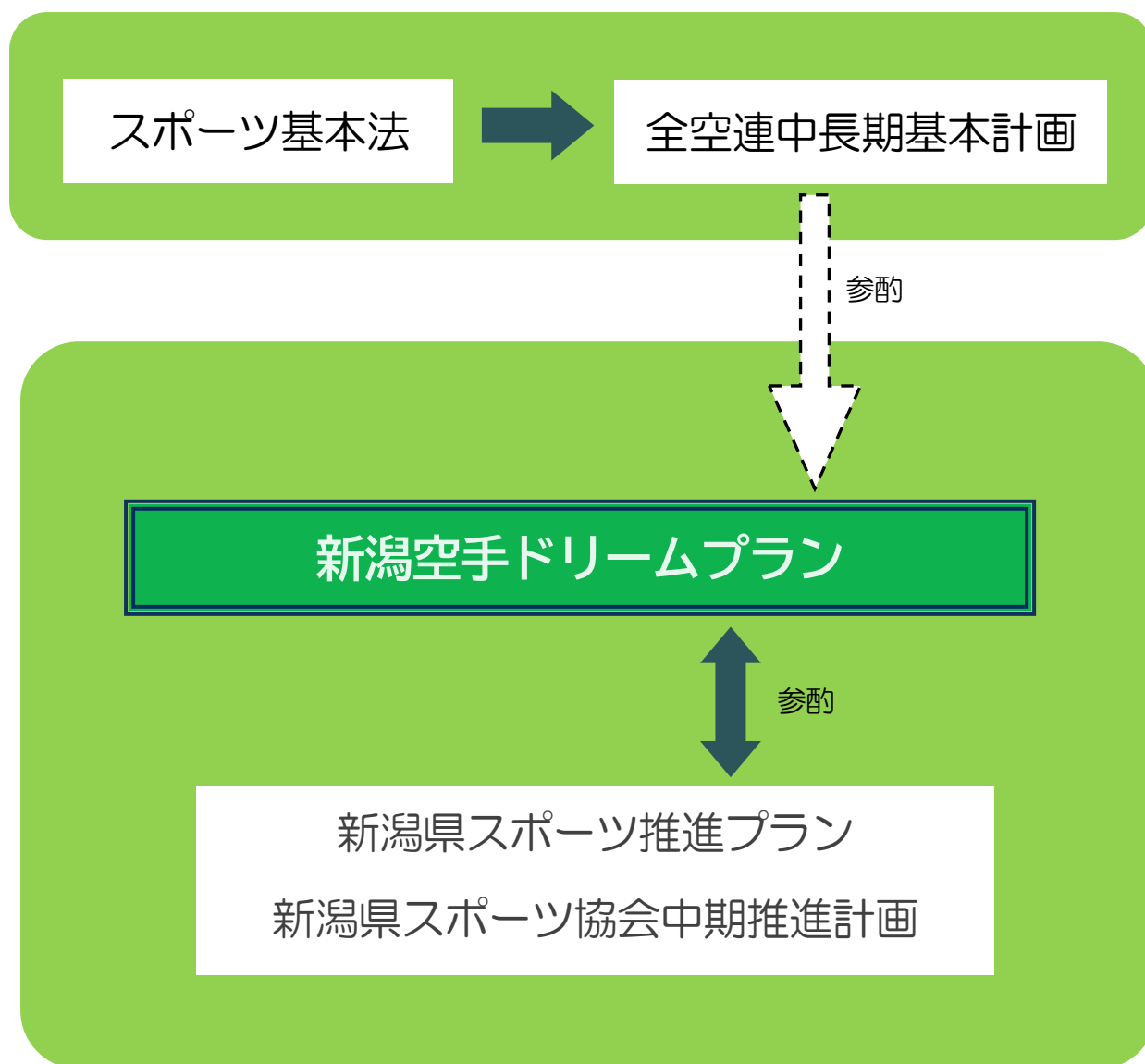
2023年3月

新潟県空手道連盟 会長 野沢慎吾

2 計画の位置づけ

(1)本計画は、県連の中長期的な活動計画を定めた「新潟空手ドリームプラン(以下、「ドリームプラン」という)」です。

(2)ドリームプランは、国が平成 23(2011)年に施行した「スポーツ基本法」に基づき、地方スポーツ団体の計画として策定するものです。また、全空連が令和 4(2022)年に策定した「中長期基本計画」及び、新潟県が令和 4(2022)年 3 月に一部改定した、「新潟県スポーツ推進プラン(平成 28(2016)年～令和 6(2024)年)」並びに新潟県スポーツ協会が令和 5(2023)年 3 月に策定した「中期推進計画」の方向性を参考にしています。



3 計画の期間

計画期間は、令和 5(2023)年度から令和 14(2032)年度までの 10 年間とします。

また、計画の進捗状況、社会情勢、国や全空連、県の動向等により適宜見直しを行います。なお、具体的な施策・事業を明らかにするために、実施計画を策定し計画を推進します。

年度(令和)	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
国の計画 スポーツ 基本計画	令和 4(2022)年度から 5 年間の計画期間									
全空連 中長期計画	令和 8(2026)年度までの 4 年間の計画期間									
新潟空手 ドリーム プラン	令和 5(2023)年度から令和 14(2032)年度までの 10 年間の計画期間とします。 ただし、上位計画の動向、社会状況の変化などにより必要に応じ見直します。									
実施計画	2年	2年	2年	2年	2年					

4 空手道の範囲

県連では、競技力向上だけでなく、生涯武道、スポーツとしての身体的活動全般、さらには空手道を観戦したり、空手道をボランティア活動として支えたりすることなど、空手道の範囲については、「する」、「みる」、「支える」武道、スポーツとして幅広くとらえたいと思います。

5 空手道の持つ役割や意義

- (1)日本古来の武道の精神を継承しながら、日々の心身の練磨を通じて、人格を陶冶するとともに、体力の向上、健康の保持・増進、精神的充足感や楽しさ、喜びをもたらす。
- (2)礼節、主体性・自立性、克己心、フェアプレーの精神、コミュニケーション能力の育成や思いやりの心を培うなど、人間形成に寄与する。
- (3)人間の可能性の極限を追求する営みを有し、夢や希望、勇気や元気、感動を与えてくれる。
- (4)生活の質の向上や自己実現を図るとともに、健康増進により健康長寿社会に寄与するなど、心の豊かさや生きがいをもたらす。
- (5)家族や仲間との人間的なふれあい、地域の連帯感や活力の増進など地域コミュニティの活性化をもたらす。
- (6)世界各国との国際交流を通じて世界平和の実現に貢献できる。

6 SDGs (持続可能な開発目標)との関係

平成 27(2015)年 9 月の国連サミットにおいて、持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)を含む「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択されました。SDGs とは、世界共通の目標として健康や教育、経済成長、気候変動など多岐にわたる 17 の持続可能な開発目標と 169 のターゲットが設定されており、いずれも令和 12(2030)年までの達成を目指すものです。すべての関係者(先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等)の役割を重視し、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むものとされています。

また、平成 28(2016)年 12 月に国の持続可能な開発目標(SDGs)推進本部が決定した「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」では、自治体の各種計画や戦略、方針の策定や改訂にあたっては SDGs の要素を最大限反映することを奨励しており、SDGs は国際社会全体の普遍的な目標であり、社会や地域の持続的な発展にとって重要な目標です。

本ドリームプランでは、第 3 章で示す県連の 3 つの理想像を実現するために、県連の理念として「空手道の健全な発展と普及を追求し、会員が一丸となって『活力あふれる県連づくり』、『持続可能な県連づくり』に取り組めます」を掲げ、加えて SDGs の理念も踏まえながら、基本施策の推進を通じて目標の達成に取り組むこととしています。



第2章

空手道を取り巻く現状と課題



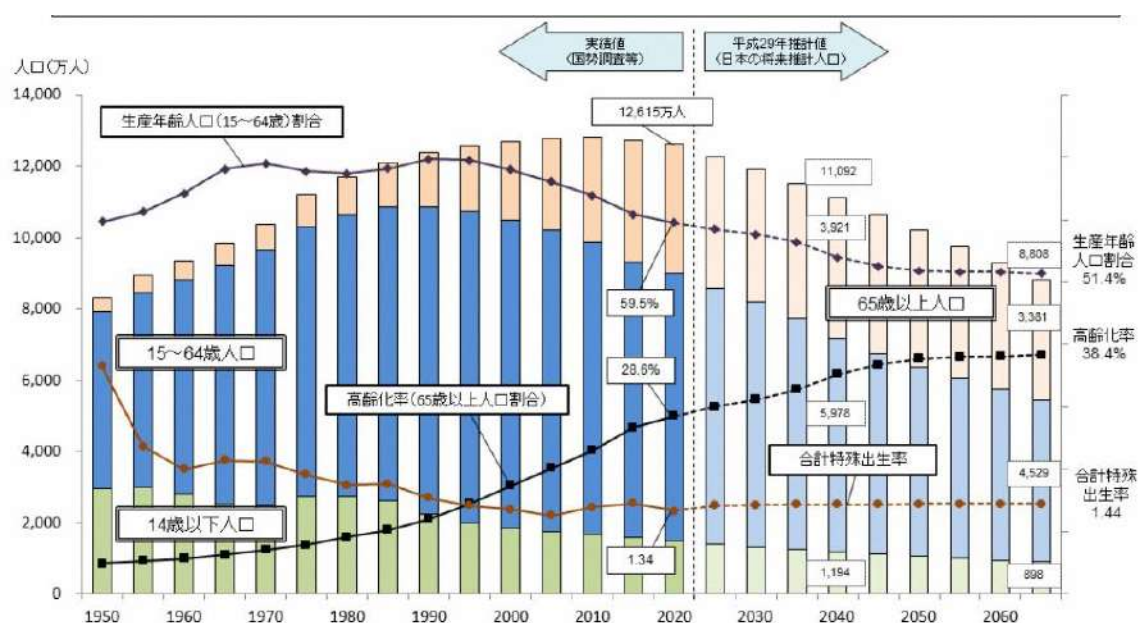
1 社会情勢の変化

(1) 少子・超高齢社会の進行

日本の総人口は、2020 年の 1 億 2,615 万人から減少局面が続き、2065 年には 8,808 万人と 9,000 万人を割り込むと推計されています。

また、高齢化率は、2020 年の 28.6%から増加傾向が続き、2065 年には 38.4%になると推計されています。

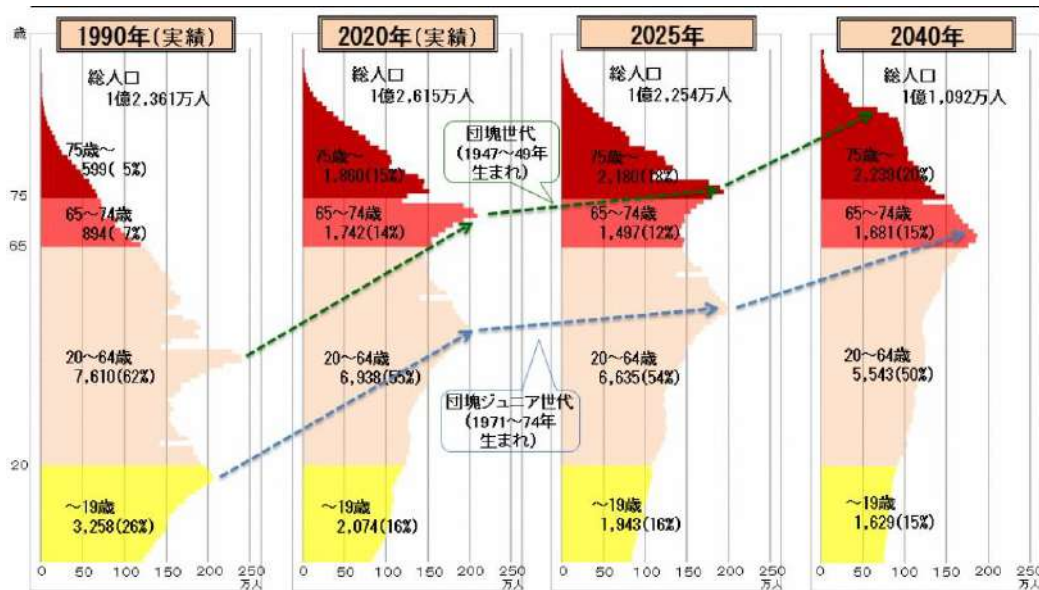
■日本の人口の推移



出所：総務省「人口統計」、厚生労働省「人口動態統計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

人口ピラミッドの変化を見ると、団塊の世代の方々がすべて 75 歳となる 2025 年には、75 歳以上の人口が全人口の約 18%となり、2040 年には約 20%となります。また、65 歳以上の人口が全人口に占める割合である高齢化率は、2025 年には約 30%に、2040 年には約 35%となると推計されています。

■日本の人口ピラミッドの変化



出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

新潟県の人口は、2020年に約221万人、2030年に約201万人、2040年に約179万人に減少すると推計されています。こどもの数の発表を始めた昭和56年4月1日現在のこどもの数は約54万8千人で、県人口に占める割合は22.5%でした。それ以降、こどもの数、割合とも41年連続で低下し、過去最低となっています。

令和3年(前年10月から当年9月まで)の出生児数は12,794人で、前年と比較して354人減少しています。

■新潟県の年齢別人口の推移

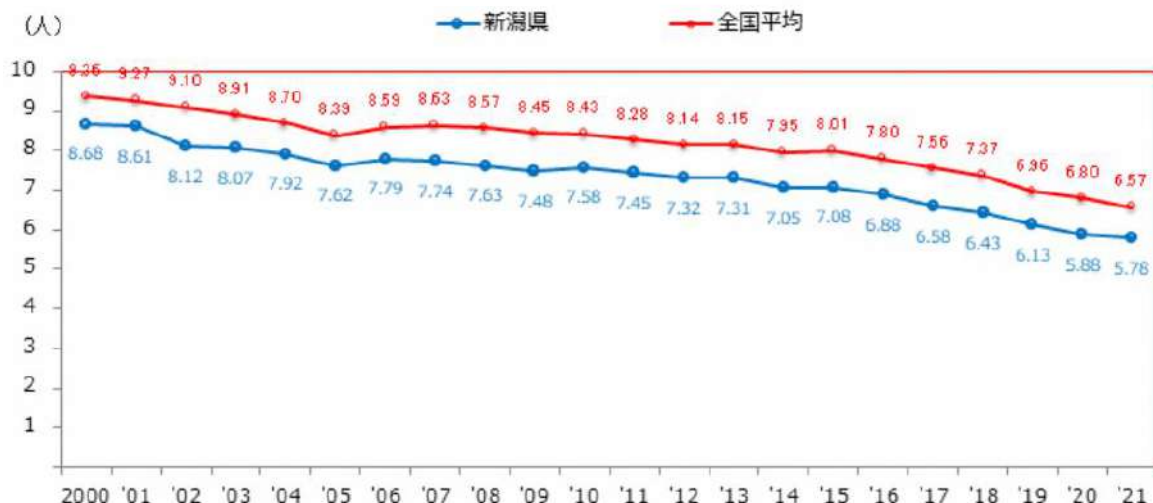


出所：グローバルマーケティング 新潟のデータ「年齢別の人口推移及び将来推計人口について」

次のグラフは、新潟県の住民基本台帳に基づく年間の人口千人当たり出生数の推移を表しています。2021年の人口千人当たり出生数は5.78人であり、6年連続で減少し

ています。また、10年前の2011年からは1.67人の減少で、マイナス22.4%となっており、少子化が進行しています。

■新潟県の住民千人当たりの出生数の推移

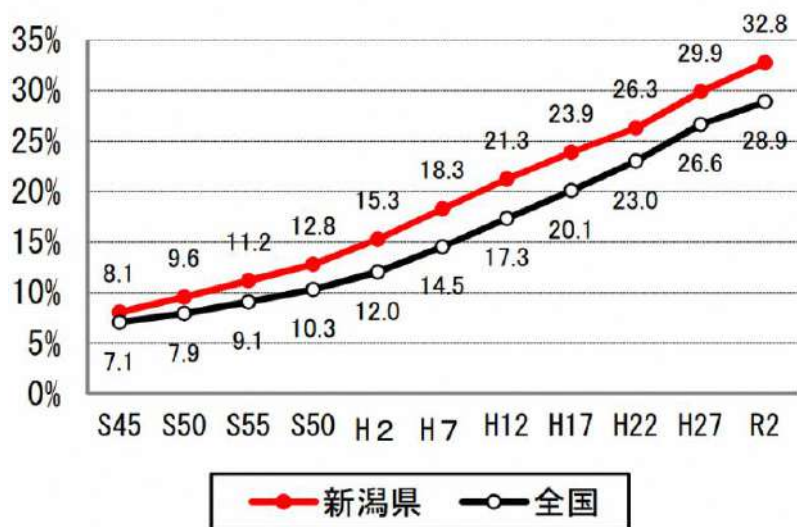


出所：総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、
総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

一方で、人口に占める65歳以上の割合(高齢化率)については、全国の28.9%に対して、新潟県は32.8%とすでに3割を超えており、既に「超高齢化社会」に突入しています。全国平均よりも約4%程度高く、今後も上昇を続ける見込みです。

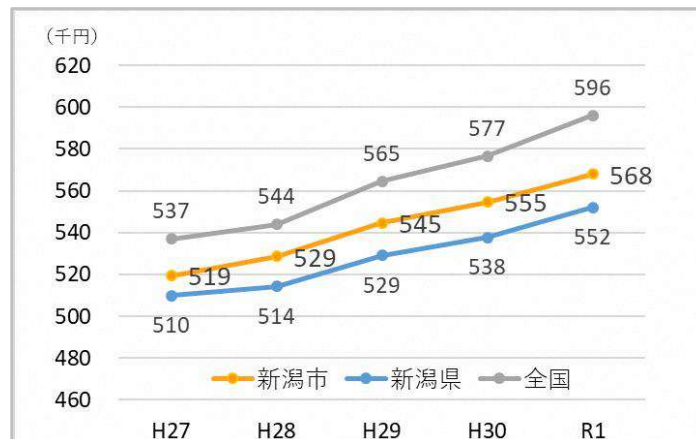
また、新潟県の国民健康保険と後期高齢者医療制度の加入者1人当たり医療費は、全国平均よりは7%程度少ないものの年々増加しています。

■新潟県の高齢化率の年次推移



出所：健康にいがた21(第3次)(2021年 新潟県)

■1人当たり医療費(国保+後期高齢者医療制度)



出所：医療費の地域差分析、総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、
総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

(2)新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの生活は、感染拡大を防止するためにソーシャルディスタンスの確保や三密の回避といった「新しい生活様式」への対応が求められました。学校部活動やスポーツ大会、イベントの延期・中止を余儀なくされるなど、人と人とのコミュニケーションが一部制限され、スポーツ活動だけでなく地域での交流活動にも大きな影響を及ぼしました。

このような非接触・非対面への対応の変化は、「働き方」や「新しい生活様式」等のライフスタイルの変化をもたらしたほか、外出自粛による運動機会の減少やストレス増加などの健康二次被害が生じています。

(3)東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なスポーツ活動が延期・中止等の対応を余儀なくされ、スポーツに親しむ機会が失われていきました。一方で、そうした状況を打破するためスポーツ関係者は、ガイドラインを策定し、感染症対策を徹底させ、無観客試合や入場者制限、あるいはデジタル技術を活用した新しい観客方法や楽しみ方の導入といった、創意工夫に取り組みながらスポーツイベントや児童・学生たちの全国大会等を開催してきました。これらの取り組みを通じて、人々を勇気づけ日常を取り戻す取り組みを継続しています。

東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおいても、選手は日々の練習環境の制約等、経験したことのない困難な状況下に置かれました。それでも目標に向かって粘り強く努力を継続し、精一杯競技に挑む姿、仲間同士で励まし合う姿、互いのプレーをたたえあう姿は、世界中の多くの人々を勇気づけ、感動をもたらしました。この大会で初めて正式競技として採用された「空手道」のほか、スケートボードやスポーツ

クライミングなどのアーバンスポーツ、パラリンピックの競技・種目等は、競技自体を初めて観戦、または目にした人々も多く、新鮮さと高い関心を持って受け入れられました。

また、このような特別な状況下で安全・安心な大会・競技運営を提供したボランティア含めたスタッフ関係者の献身的な姿を世界中の人々が目の当たりにしました。

2024年のパリオリンピックでは、残念ながら「空手道競技」は不採用となりましたが、競技としてはこれらのことを通じて、スポーツ競技が持つ人々の心を感動させる力や楽しさ等の価値を改めて見出すことができたほか、世界中の多様な人々の相互理解を一段と深め、共生社会に対する理解・関心が高まりました。

(4) デジタル技術革新の急速な進展

現在、ICT、AI(人工知能)、VR(仮想現実)、AR(拡張現実)等のデジタル技術の開発が急速に進展しています。これらの先端技術は、新しい産業の創出・発展や企業の生産性の向上だけでなく、人々の「働き方」や「生活様式」等のライフスタイルも大きく変え、生活に関わる様々な分野での活用が期待されています。スポーツ分野においても、高速・大容量の特性を活かした次世代通信5Gによるトレーニング動画のオンライン配信やVR、AR等を利用した新たなスポーツなど、様々なデジタル技術を採用する動きがみられました。

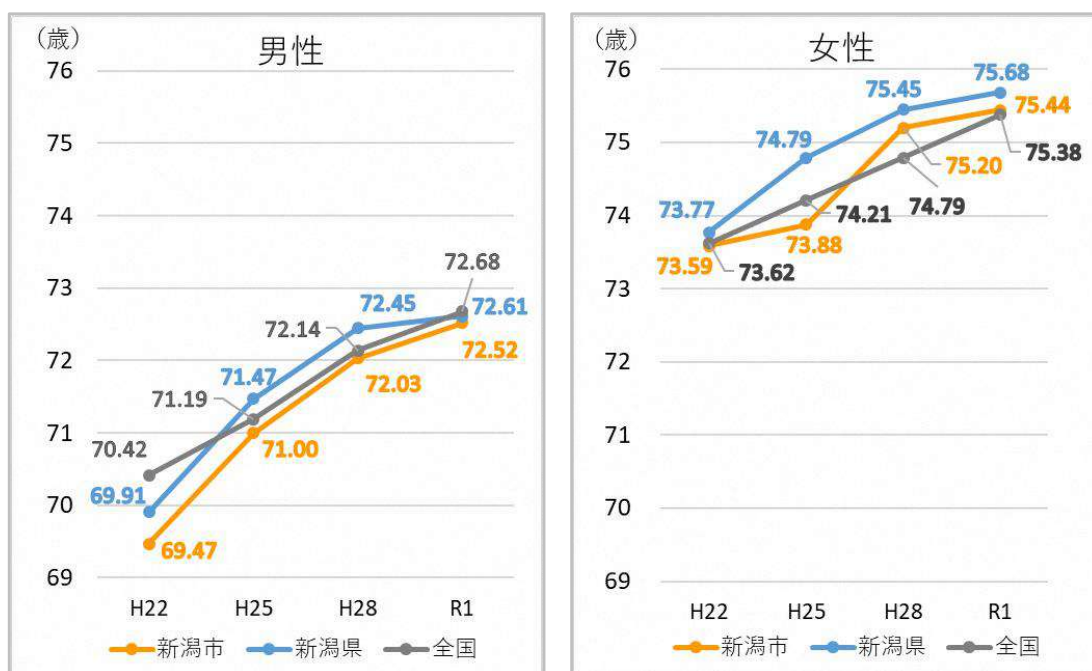
その一方で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、テレワークやワーケーションの導入、シェアリングエコノミーの展開、オンライン授業やSNSによる交流のさらなる普及等、働き方や学び方の変化に伴う体を動かす機会の減少による運動不足も懸念されています。

(5) ライフステージに応じた健康づくり

日本人の健康寿命は世界最高水準であり、さらなる延伸が予想されている背景を受け、政府は「人生 100 年時代構想会議」を立ち上げ、幼少期から高齢者まですべての人々が元気に活躍し続けることのできる社会を目指しています。

新潟県の健康寿命は、全国同様、男女ともにこの 10 年間で 2 歳程度伸びていますが、平均寿命との差である、健康でない期間は男性で約 8 年、女性で約 12 年になっています。私たちが、生涯を通じて健やかに過ごすためには、健康寿命を延伸し、健康でない期間を短くしていくことが重要であり、その一環として、一般的な運動・スポーツだけでなく空手道をはじめとした武道による健康づくりを推進し、全世代がライフステージに合わせた体を動かす習慣を確立するよう取り組んでいく必要があります。

■男女別 新潟市・新潟県・全国健康寿命の推移



出所 健康寿命の算定・評価と延伸可能性の予測に関する研究(厚生労働行政推進調査事業費補助金)

2 県連の現状と課題

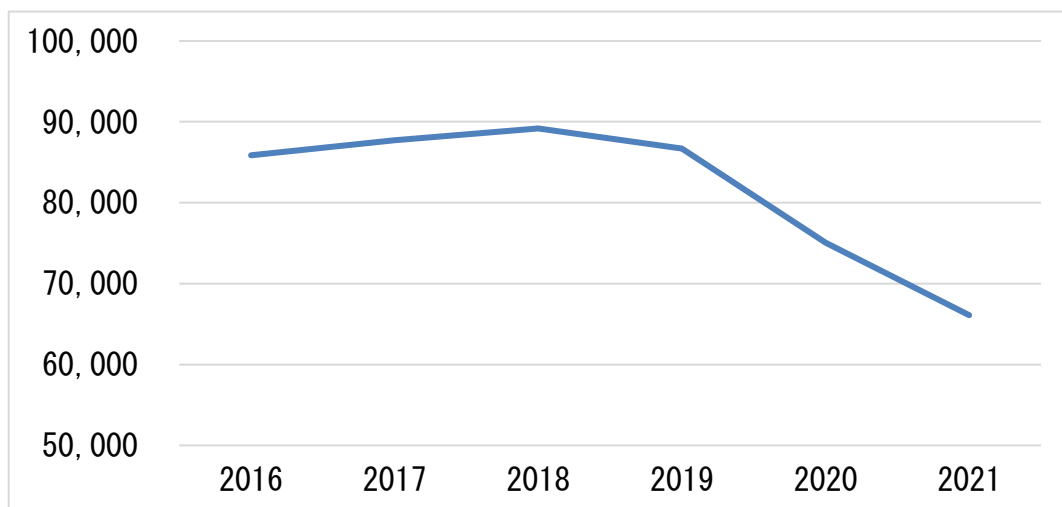
(1) 全空連の登録会員数の推移

日本におけるスポーツ団体を取り巻く環境は、少子高齢化を受けた人口構成の変化や教育現場の構造問題などで状況が大きく変化してきました。

全空連が令和4(2022)年に策定した「中長期基本計画」によると、空手界においては、東京2020オリンピックで悲願のオリンピック正式競技入りを果たし、空手関係者の大会に向かう気運は大いに盛り上がりを見せましたが、パリ2024オリンピックでは落選したことも影響し、全空連の登録会員数も平成30(2018)年ピーク比から約3割減少しています。

全空連ではこうした環境変化を踏まえ、全空連の向かうべき方向としての「基本理念」を定め、基本戦略と具体的施策の実践により持続可能性を追求しています。

■全空連の登録会員数の推移



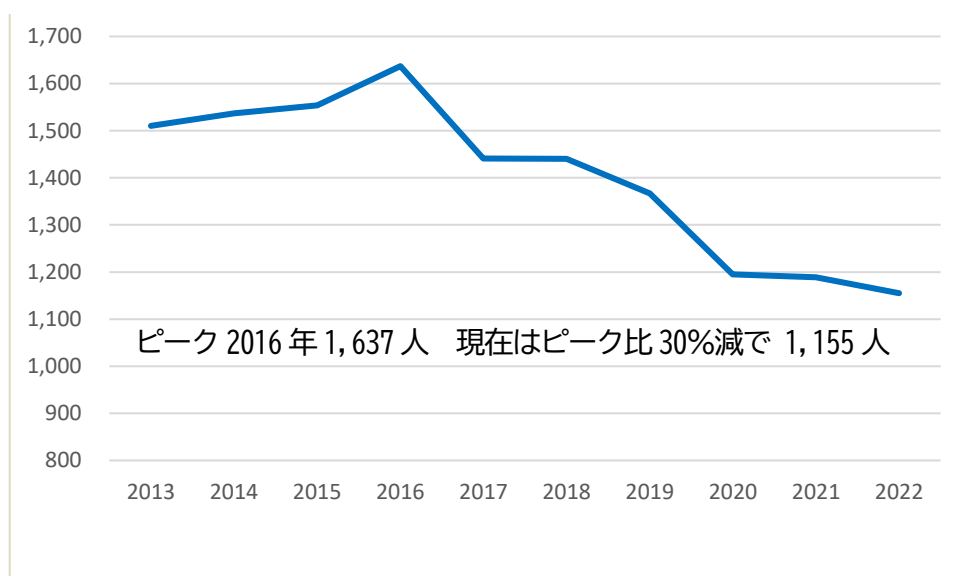
出所 全日本空手道連盟「中長期基本計画の策定について」

(2) 県連の登録会員数の推移

県連の登録会員数の推移を次表に示します。登録会員数は、平成28(2016)年の1,637人をピークに、現在は1,155人と減少に歯止めがかかっていない状況にあります。

少子化が大きな影響を及ぼしていることもありますが、登録会員数の減少などへの対応は喫緊の課題です。空手関連のイベントやセミナー開催による啓発活動だけでなく、若年層をターゲットとしたSNS等を活用した県連活動の案内周知も必要です。

■県連の登録会員数の推移



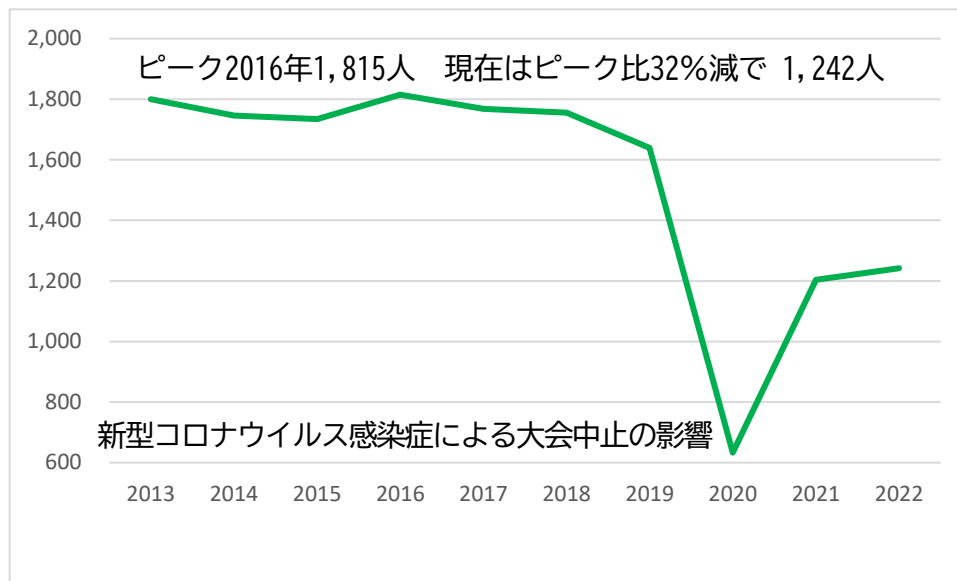
(3) 競技力の低下傾向

県連勢の競技力として、過去 10 年間の北信越空手道選手権大会の優勝者数を示します。北信越空手道選手権大会の優勝者数一般の大会において、平成 25(2013)年から平成 29(2017)年の 5 年間の優勝者数は、6 人であったのに対して、平成 30(2018)年から令和 4(2022)年の 5 年間では、わずか 2 人と 3 分の 1 に減少しています。

また、北信越小中学生空手道選手権大会の優勝者数は、平成 25(2013)年から平成 29(2017)年の 5 年間の優勝者数は、27 人であったのに対し、平成 30(2018)年から令和 4(2022)年の 5 年間では、19 人と約 3 割減少しています。

県連の大会参加者数の推移を次表に示します。大会参加者数は、前述した登録会員数と同様に、平成 28(2016)年の 1,815 人をピークに、令和 2(2020)年は新型コロナウイルス感染症による多くの大会が中止になったため、633 人と著しく減少したことを除いたとしても、現在は 1,242 人とこの 10 年間で減少に歯止めがかかっていない状況にあります。

■県連の大会参加者数の推移



平成 21(2009)年に開催された、第 64 回国民体育大会「ときめき新潟国体」以降、県連の競技力が低下している傾向は顕著であり、登録会員数や大会参加者数の減少傾向の回復と併せて、県連組織一丸となった取り組みが必要であるといえます。

(4)審判員・指導者の減少

県連に所属する審判員数は、現在 40 人と近年減少傾向にあります。その内、50 代と 60 代を合わせると 18 名であり全体の約 45%を占めており、審判員の高齢化が進んでいます。5 年後には新規 15 名、さらに 10 年後には新規 15 名の県組手資格の取得者を目指します。

一方、公認指導者のコーチ 1 及びコーチ 2 においては、令和元(2019)年にコーチ 2 の取得講習会を本県で開催したこともあり、現在は合わせて 48 人が登録しています。こちらは、数年後のうちに再度本県での取得講習会を開催予定であり、さらに 10 ～20 名程度増加することが予想されています。

審判員の新規取得者の増加及び技術レベルの向上、公認指導者の育成及び資質の向上は喫緊の課題であるといえます。

(5) ガバナンスコード策定の必要性

スポーツの価値を毀損しかねない不祥事の発生を防ぎ、スポーツの価値を一層高めていくため、スポーツの普及・振興の重要な担い手となっているスポーツ団体の適正なガバナンス(統治・管理)を確保することが必要不可欠です。

このような問題意識から、スポーツ庁は、平成 30(2018)年 12 月に「スポーツ・インテグリティの確保に向けたアクションプラン」を策定し、スポーツ団体が適切な組織運営を行うための原則・規範としてスポーツ団体ガバナンスコード(統治指針)を策定することとしました。スポーツ審議会における審議を経た上で、すべての中央競技団体(NF)向け及び一般スポーツ団体向けの「ガバナンスコード」を令和元(2019)年 6 月に示し、適性なガバナンス(組織統制)体制の確立を前提とした事業運営の適正性の確保を求めています。

このような国の動向を受け、県連としての適性な「ガバナンスコード」を早急に策定する必要性があると考えます。

(6) 広報戦略とデジタル化の必要性

前述したように、少子化の影響などによる登録会員数や大会参加者数の減少傾向への対応は、活力あふれる県連づくりにも密接に関連する重大な課題となっています。

その解決策の方向性としては、広報戦略とデジタル化への対応が挙げられます。若年層をメインターゲットとした SNS の積極的な活用等の戦略的な広報活動や、選手のトレーニング動画を利用したオンライン指導などデジタル機器を活用することによる新たな指導のあり方など、スポーツ界の DX(デジタルトランスフォーメーション：デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること)が求められています。

(7) 合宿・大会の誘致やイベント招致

合宿・大会の誘致やイベント招致を実現することで、より多くの人々が空手道に関わり、空手道を楽しむことで、様々な人や地域との交流を深め、空手人口の増大や普及振興につながり、ひいては競技力向上にも寄与するものとなります。

令和 3(2021)年に、空手のフランス代表チームが、亀田総合体育館武道場を会場に、東京 2020 オリンピックの事前合宿を実施しました。

県連会員のジュニア選手及びその関係者を対象に、公開練習を実施し、世界のトップアスリートの技を肌で感じる事ができる良い交流の場となりました。

合宿に参加した、フランス代表の男子組手 67 kg級のステバン・ダコスタ選手は、見事金メダルを獲得しました。

フランス空手代表チーム歓迎セレモニー



フランス空手代表チームによる公開練習



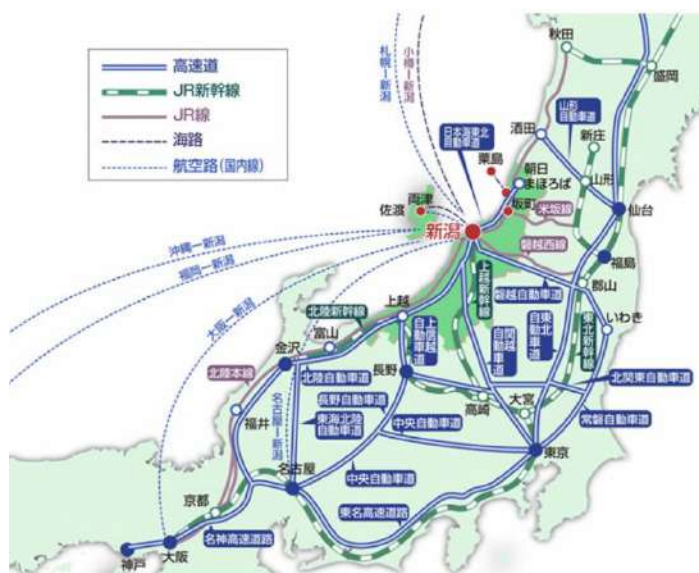
(8)空手道を通じた社会貢献

県連の会員であることへの誇りと愛着を育み、第3章で示す「空手道の健全な発展と普及を追求し、会員が一丸となって『活力あふれる県連づくり』、『持続可能な県連づくり』に取り組めます」という県連の理念を掲げつつ、SDGsの理念も踏まえながら地域の活性化やまちづくりに役立ちたいという意識を持ち続け、県連の基本方針やそれに基づく施策に取り組んでいくことが、県連の理念やSDGsの理念を実現し、ひいては社会貢献につながると考えます。

3 県連の特徴・強み

全国レベルの大会運営

新潟県は、日本海沿岸側の中心に位置し、政令指定都市である新潟市をはじめとして30市町村が存在します。港湾、空港、鉄道、高速道路により国内外と密接に結ばれた良好な交通アクセスなど、優れた拠点性を有するとともに、新潟県立武道館(謙信公武道館)や朱鷺メッセ、新潟スタジアム(デンカビッグスワンスタジアム)といった大型スポーツ施設等が充実しています。



出所 新潟市移住定住情報サイト「新潟暮らしは、HAPPY ターン。」



県立武道館(謙信公武道館)



朱鷺メッセ

県連は、平成 7(1995)年 1 月 15 日に、永年にわたり空手道の普及振興に尽力してきた顕著な功績が認められ、日本武道協議会より「武道優良団体」として表彰されました。

日本武道協議会より武道優良団体として表彰(平成 7 年 1 月 15 日)



また、平成 28(2016)年 11 月 12 日には、県連の創立 50 周年記念式典・祝賀会を盛大に開催しました。

新潟県空手道連盟 創立 50 周年記念式典・祝賀会の様子



※出所：新潟県空手道連盟 創立 50 周年記念誌より(2016. 11. 12)

平成 21(2009)年には地元新潟の国民体育大会が開催され、平成 24(2012)年には全国高等学校空手道選手権大会(インターハイ)、平成 28(2016)年には全国中学生空手道選手権大会が開催され、関係する団体、組織との連携、協力を図りながら成功に導いたことは、全国レベルの大会を確実に実行出来る、組織力があることを示しています。



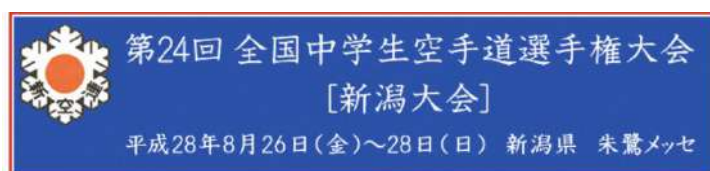
平成 21(2009)年 第 64 回国民体育大会 空手道競技 新潟県代表選手の様子①
※出所：新潟県空手道連盟 設立 50 周年記念誌より(2016. 11. 12)



平成 21(2009)年 第 64 回国民体育大会 空手道競技 新潟県代表選手の様子②
※出所：新潟県空手道連盟 設立 50 周年記念誌より(2016. 11. 12)



平成 24(2012)年 全国高等学校空手道選手権大会(インターハイ)の様子
※出所：新潟県空手道連盟 設立 50 周年記念誌より(2016. 11. 12)



平成 28(2016)年 第 24 回全国中学生空手道選手権大会 新潟県選手団の様子

国際レベルの選手との交流

【東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会(※再掲)】

令和 3(2021)年に、空手のフランス代表チームが、亀田総合体育館武道場を会場に、東京 2020 オリンピックの事前合宿を実施しました。

県連会員のジュニア選手及びその関係者を対象に、公開練習を実施し、世界のトップアスリートの技を肌で感じる事ができる良い交流の場となりました。

合宿に参加した、フランス代表の男子組手 67 kg級のステバン・ダコスタ選手は、見事金メダルを獲得しました。

フランス空手代表チーム歓迎セレモニー



フランス空手代表チームによる公開練習



国際・全国レベルの人材

県連は、今までにナショナルチームで活躍した選手を複数輩出し、また、東京 2020 オリンピックの男子組手監督、コーチ、国際審判員として携わっている国際・全国レベルの人材も会員となっています。

平成 4(1992)年 世界空手道選手権大会 男子個人組手 無差別級 林晃選手 優勝



※出所：新潟県空手道連盟 創立 50 周年記念誌より(2016. 11. 12)

平成 21(2009)年 第 64 回国民体育大会空手道競技 一般男子形 優勝



※出所：新潟県空手道連盟 創立 50 周年記念誌より(2016. 11. 12)

東京 2020 オリンピック大会 空手道競技選手団の様子



※出所：公益財団法人 全日本空手道連盟(2021. 8. 2)

東京 2020 オリンピック大会 空手道男子組手競技 林 晃 代表監督
燕市スポーツ協会での講演会の様子



※出所：ケンオー・ドットコム kenoh.com(2023. 1. 22)

東京 2020 オリンピック大会 空手道形競技 古川 哲也コーチ



※出所：JKFanNews(2022. 10. 19)

東京 2020 オリンピック大会 空手道競技 佐伯 進 国際審判員



※出所：東京 2020 オリンピック大会会場にて(2021. 8. 5 撮影)

第3章

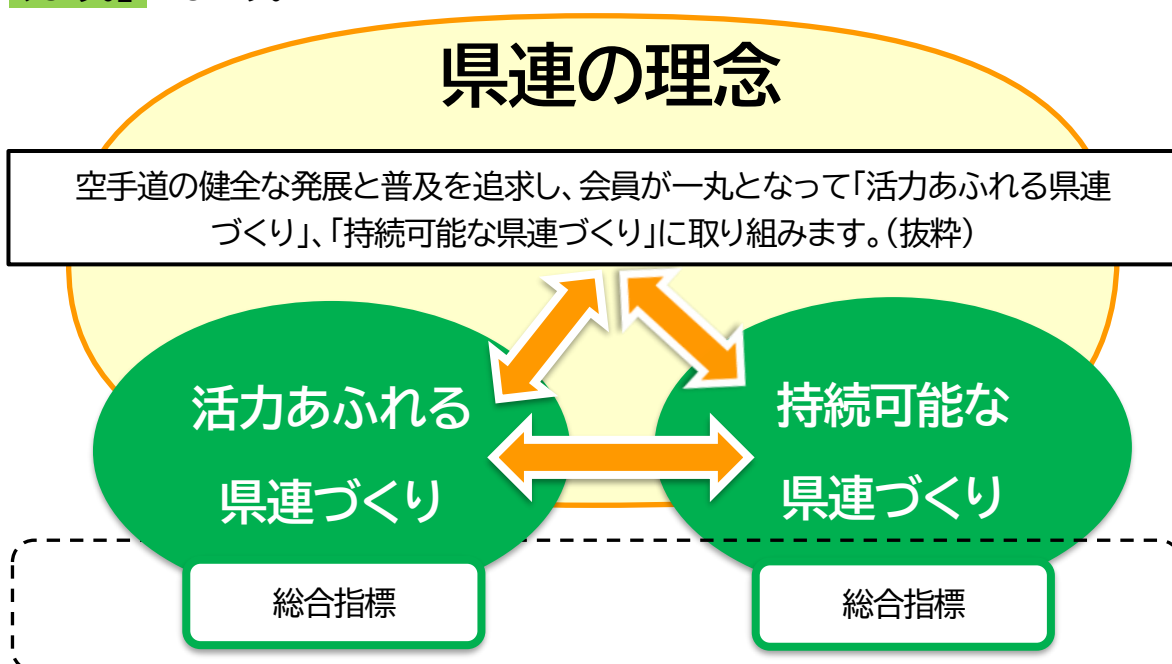
県連の理念・県連像・基本方針



1 県連の理念

「活力あふれる県連づくり」、「持続可能な県連づくり」に取り組む

本ドリームプランにおける「県連の理念」は、『空手道の健全な発展と普及を追求し、会員が一丸となって、県連の特徴や強みを活かしながら、少子高齢化・人口減少の時代に躍動する、「活力あふれる県連づくり」、「持続可能な県連づくり」に取り組めます。』とします。



県連の会員であることへの誇りと愛着を育むとともに、県連の強みを最大限に活かしながら、県連会員が一丸となり総力を挙げて「活力あふれる県連づくり」と「持続可能な県連づくり」に取り組めます。

将来にわたって、県連の会員が活力にあふれた「豊かな活動」ができる持続可能な県連の実現を目指し、将来世代へと引き継いでいきます。

「活力あふれる県連づくり」や「持続可能な県連づくり」に寄与する5年後の令和9(2027)年と、10年後の令和14(2032)年の評価指標を「総合指標」として設定しました。

総合指標	2022年 (現状値)	2027年 (5年後)	2032年 (10年後)
県連の活動全般の評価指数 (0～10点)	6.32	現状値20%向上	現状値30%向上
今後も県連に所属し続けたいと思う会員の割合	83.1%	現状値5%向上	現状値10%向上

2 目指す県連像

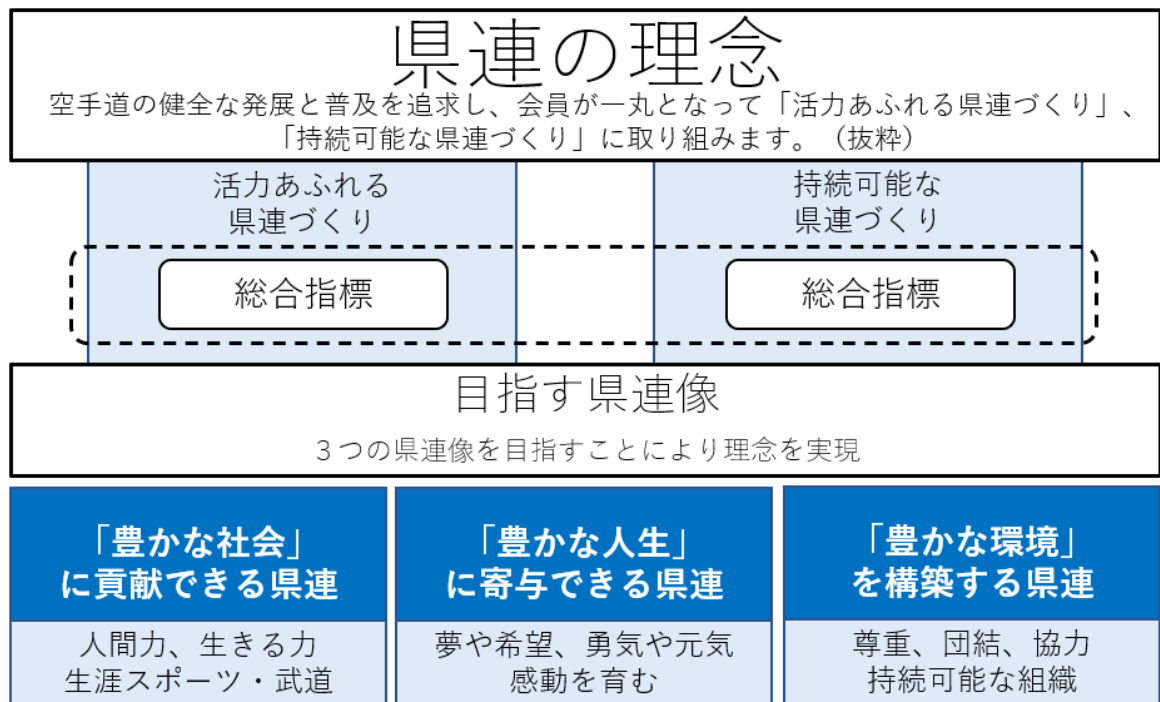
「豊かな社会」、「豊かな人生」、「豊かな環境」の3つの調和

県連の理念に基づき、県連が令和14(2032)年に目指す県連像を示します。

(1)	空手道を通じて、人間力、生きる力を養うと共に、生涯スポーツ・武道として、ウェルビーイング(well-being)※な「豊かな社会」に貢献できる県連を目指します。
(2)	空手道を通じて、夢や希望、勇気や元気、感動を育み、「豊かな人生」に寄与できる県連を目指します。
(3)	会員が互いを尊重、団結、協力し、和を以て高め合える「豊かな環境」づくりを構築する持続可能な県連を目指します。

※ウェルビーイング(well-being)：世界保健機関(WHO)憲章の前文の一節にあり、幸福で肉体的、精神的、社会的すべてに満たされた状態をいう。

「豊かな社会」、「豊かな人生」、「豊かな環境」の3つの側面の豊かさを調和し高めていくことで、県連の理念である「活力あふれる県連づくり」、「持続可能な県連づくり」を推進し、目指す県連像の実現につなげていきます。



3 基本方針

5つの基本方針

本ドリームプランを着実に実現するため、以下に示す5つの基本方針において、各々が横断的かつ重点的に取り組むことにより、3つの県連像の実現を目指します。

(1)	「組織力の向上・推進」を図り、豊かな空手環境づくりを構築します。
(2)	「競技力の向上・推進」を図り、人間力、生きる力を養います。
(3)	「審判力の向上・推進」を図り、夢や希望、感動を共有します。
(4)	「普及・振興施策の推進」を図り、生涯スポーツ・武道の発展に寄与します。
(5)	「SDGsで掲げるゴールへの貢献」を図り、持続可能な社会の実現に貢献します。

それぞれの方針に寄与する5年後の令和9(2027)年と、10年後の令和14(2032)年の評価指標を「施策指標」として設定します。

これらの「施策指標」は「総合指標」に寄与するものとします。

(1)「組織力の向上・推進」の成果指標

「施策指標」として、以下の3つの成果指標を設定し、「組織力の向上・推進」を図ることにより、豊かな空手環境づくりを構築することを目指します。

- ◆(過去2年間)組織力向上・推進のための活動や取り組み等に参加した回数
- ◆(過去2年間)組織力向上・推進のための活動や取り組み等の満足度
- ◆ 持続可能な組織力維持に向けた会員数

施策指標	2022年 (現状値)	2027年 (5年後)	2032年 (10年後)
(過去2年間)組織力向上・推進のための活動や取り組み等に参加した回数	0.72	現状値30%向上	現状値50%向上
(過去2年間)組織力向上・推進のための活動や取り組み等の満足度	23.0%	現状値30%向上	現状値50%向上
持続可能な組織力維持に向けた会員数	1,155人	現状値10%向上	現状値20%向上

(2)「競技力の向上・推進」の成果指標

「施策指標」として、以下の5つの成果指標を設定し、「競技力の向上・推進」を図ることにより、豊かな人間力、生きる力を養うことを目指します。

- ◆(過去2年間)競技力向上・推進のための活動や取り組み等に参加した回数
- ◆(過去2年間)競技力向上・推進のための活動や取り組み等の満足度
- ◆ 国民体育大会天皇杯成績
- ◆ 全国大会(小中、高体連、国体、全日本)での上位入賞者の育成
- ◆ ナショナルチーム選考会での合格者の増加

施策指標	2022年 (現状値)	2027年 (5年後)	2032年 (10年後)
(過去2年間)競技力向上・推進のための活動や取り組み等に参加した回数	3.04	現状値30%向上	現状値50%向上
(過去2年間)競技力向上・推進のための活動や取り組み等の満足度	60.1%	現状値30%向上	現状値50%向上
国民体育大会天皇杯成績	19位	10位	8位
全国大会(小中、高体連、国体、全日本)での上位入賞者の育成	1位1名(高) 5位2名(小) 計3名	8名	10名
ナショナルチーム選考会での合格者の増加	1名	3名	5名

(3)「審判力の向上・推進」の成果指標

「施策指標」として、以下の4つの成果指標を設定し、「審判力の向上・推進」を図ることにより、夢や希望、感動を共有することを目指します。

- ◆(過去2年間)審判力向上・推進のための活動や取り組み等に参加した回数
- ◆(過去2年間)審判力向上・推進のための活動や取り組み等の満足度
- ◆ 審判員資格取得者数
- ◆ 強化部主催の強化練習会への協力

施策指標	2022年 (現状値)	2027年 (5年後)	2032年 (10年後)
(過去2年間) 審判力向上・推進のための活動や取り組み等に参加した回数	0.75	現状値30%向上	現状値50%向上
(過去2年間) 審判力向上・推進のための活動や取り組み等の満足度	21.9%	現状値30%向上	現状値50%向上
審判員資格取得者数	40名	新規取得者15名以上	新規取得者30名以上
強化部主催の強化練習会への協力	3名	5名	10名

(4)「普及・振興力の向上・推進」の成果指標

「施策指標」として、以下の6つの成果指標を設定し、「普及・振興力の向上・推進」を図ることにより、生涯スポーツ・武道の発展に寄与することを目指します。

- ◆(過去2年間)普及・振興力向上・推進のための活動や取り組み等に参加した回数
- ◆(過去2年間)普及・振興力向上・推進のための活動や取り組み等の満足度
- ◆ 資格審査員の取得者数(累計)
- ◆ 5段位以上の取得者数(累計)
- ◆ コーチ1・2の取得者数(累計)
- ◆ 女性会員向け交流会の開催

施策指標	2022年 (現状値)	2027年 (5年後)	2032年 (10年後)
(過去2年間) 普及・振興力向上・推進のための活動や取り組み等に参加した回数	2.18	現状値30%向上	現状値50%向上
(過去2年間) 普及・振興力向上・推進のための活動や取り組み等の満足度	53.1%	現状値30%向上	現状値50%向上
資格審査員の取得者数 (累計)	8名	11名	11名
5 段位以上の取得者数 (累計)	17名	20名	25名
コーチ1・2の取得者数 (累計)	48名	68名	88名
女性会員向け交流会の開催	0回	女性会員の交流事業の定着	女性会員の交流事業の継続と他県との交流

(5)「SDGsで掲げるゴールへの貢献」の成果指標

「施策指標」として、以下の2つの成果指標を設定し、SDGsで掲げるゴールへの貢献を図ることにより、持続可能な社会の実現に貢献することを目指します。

- ◆(過去2年間)SDGsで掲げるゴールへの貢献のための活動や取り組み等に参加した回数
- ◆(過去2年間)SDGsで掲げるゴールへの貢献のための活動や取り組み等の満足度

施策指標	2022年 (現状値)	2027年 (5年後)	2032年 (10年後)
(過去2年間)SDGsで掲げるゴールへの貢献のための活動や取り組み等に参加した回数	—	現状値30%向上	現状値50%向上
(過去2年間)SDGsで掲げるゴールへの貢献のための活動や取り組み等の満足度	—	現状値30%向上	現状値50%向上

第4章

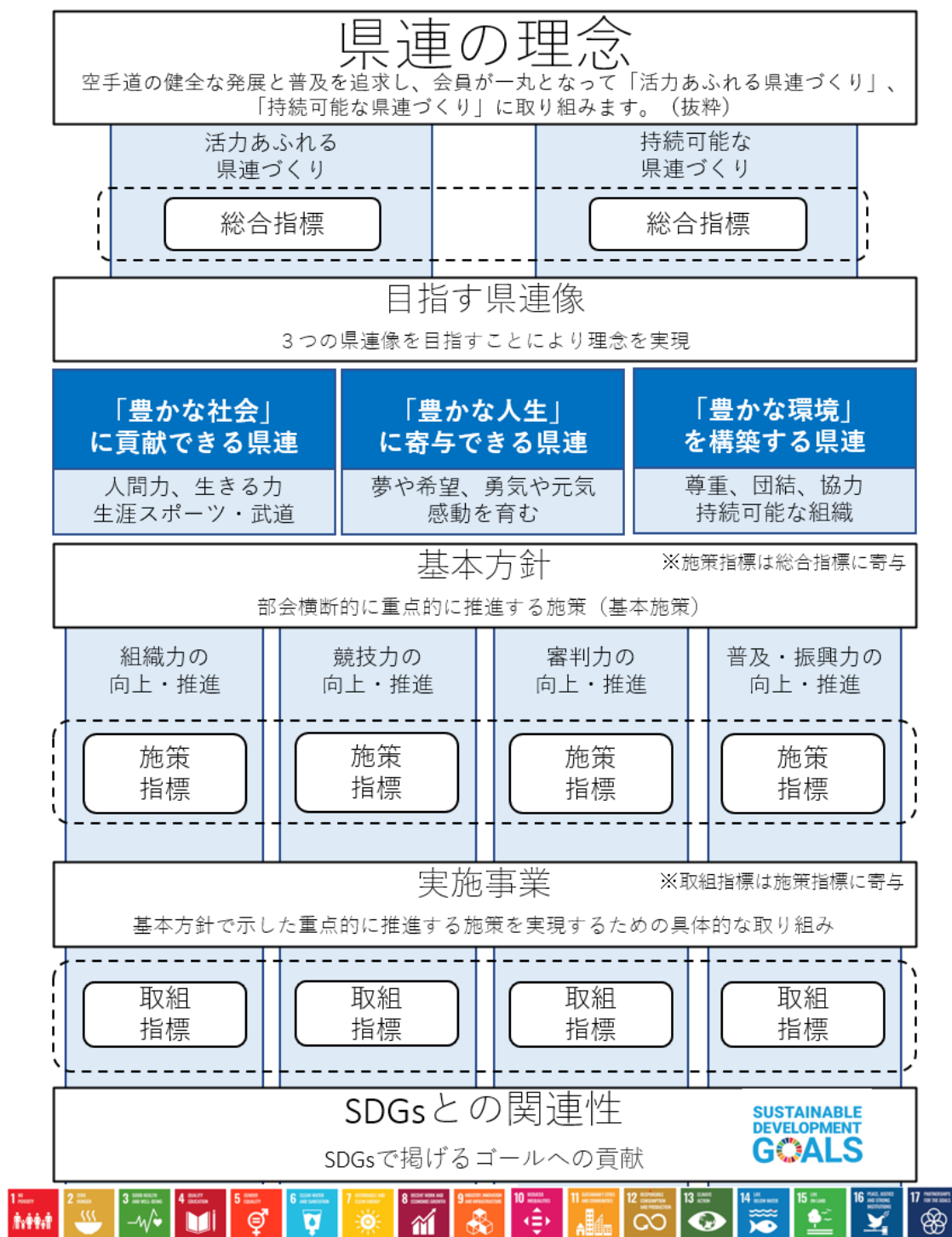
計画の推進



1 計画の体系

本ドリームプランにおける計画の体系を以下に示します。

新潟空手ドリームプラン全体像



3つの県連像を目指すことにより、県連の理念を実現します。これらの県連像を目指すための「基本方針」として「組織力」、「競技力」、「審判力」、「普及・振興力」などの各分野を横断的、重点的に推進する基本施策を設定しました。

また、これらの施策を実現するための具体的な取り組みとして、各部会の実施事業を設定しました。この他、その進捗を測るための成果指標として、指標を設定し、成果指標を中心とした進行管理を行います。

以下に、総合指標、施策指標、取組指標を掲載した新潟空手ドリームプラン骨子を示します。

新潟空手ドリームプラン骨子							
1	策定の趣旨	県連の発足から半世紀以上が経過し、全国的なイベントを成功させてきた県連の強み、また東京五輪での空手競技の採用、コロナ禍や少子高齢化の社会状況、国や全空連の目指す方向性を参酌し、県連の理念や役割について明確にし、日本一の組織を目指すと共に、空手を通じた明るく豊かな社会を未来を会員一丸となって築くために策定する。					
2	計画の位置付け	平成23年に国が施行した「スポーツ基本法」に基づき、地方スポーツ団体の計画として策定する。また、令和4年に全空連が策定した「中長期基本計画」を参考にする。					
3	計画期間	令和5年度から令和14年度までの10年間とする。計画の進捗状況、国や全空連、関係団体の動向等により見直す。2年毎に実施計画を策定し、計画を推進する。					
4	県連の現状と課題	(1)	登録会員数・大会参加者数の減少				
		(2)	2009年以降の競技力低下傾向				
		(3)	審判・指導者(後継者)数の減少				
		(4)	組織運営を持続させ、発展していくための対策が必要				
5	県連の特徴や強み	(1)	流派、会派の枠を超えて和を以て県連が発足、発展してきたこと				
		(2)	国体や全中などのビッグイベントを成功させてきた力				
		(3)	日本を代表して世界、アジア大会やオリンピックを経験して来た選手・指導者を輩出して来ていること				
6	県連の理念	(1)	空手道の健全な発展と普及を追求し、会員が一丸となって、県連の特徴や強みを活かしながら、少子高齢化・人口減少の時代に躍動する、「活力あふれる県連づくり」、「持続可能な県連（組織）づくり」に取り組む。	総合指標	2022年 (現状値)	2027年 (5年後)	2032年 (10年後)
				県連の活動全般の評価指数（0～10点）	6.32	現状値20％向上	現状値30％向上
				今後も県連に所属し続けたいと思う会員の割合	83.1%	現状値5％向上	現状値10％向上
7	目指す理想像	(1)	空手道を通じて、人間力、生きる力を養うと共に、生涯スポーツ・武道として、「豊かな社会」に貢献できる県連を目指す。				
		(2)	空手道を通じて、夢や希望、勇気や元気、感動を育み、心「豊かな人生」に寄与できる県連を目指す。				
		(3)	会員が互いを尊重、団結、協力し、和を以て高め合える「豊かな環境づくり」を構築する持続可能な県連（組織）を目指す。				

				施策指標	2022年 (現状値)	2027年 (5年後)	2032年 (10年後)	
8	基本方針	(1)	「組織力の向上・推進」を図り、豊かな空手環境づくりを構築します。	(過去2年間) 組織力向上・推進のための活動や取り組み等に参加した回数	0.72	現状値30%向上	現状値50%向上	
				(過去2年間) 組織力向上・推進のための活動や取り組み等の満足度	23.0%	現状値30%向上	現状値50%向上	
				持続可能な組織力維持に向けた会員数	1,155人	現状値10%向上	現状値20%向上	
		(2)	「競技力の向上・推進」を図り、人間力、生きる力を養います。	(過去2年間) 競技力向上・推進のための活動や取り組み等に参加した回数	3.04	現状値30%向上	現状値50%向上	
				(過去2年間) 競技力向上・推進のための活動や取り組み等の満足度	60.1%	現状値30%向上	現状値50%向上	
				国民体育大会天皇杯成績	19位	10位	8位	
				全国大会(小中・高体連、国体、全日本)での上位入賞者の育成	1位1名(高) 5位2名(小) 計3名	8名	10名	
				ナショナルチーム選考会での合格者の増加	1名	3名	5名	
		(3)	「審判力の向上・推進」を図り、夢や希望、感動を共有します。	(過去2年間) 審判力向上・推進のための活動や取り組み等に参加した回数	0.75	現状値30%向上	現状値50%向上	
				(過去2年間) 審判力向上・推進のための活動や取り組み等の満足度	21.9%	現状値30%向上	現状値50%向上	
				審判員資格取得者数	40名	新規取得者15名以上	新規取得者30名以上	
				強化部主催の強化練習会への協力	3名	5名	10名	
		(4)	「普及・振興力の推進」を図り、生涯スポーツ・武道の発展に寄与します。	(過去2年間) 普及・振興力向上・推進のための活動や取り組み等に参加した回数	2.18	現状値30%向上	現状値50%向上	
				(過去2年間) 普及・振興力向上・推進のための活動や取り組み等の満足度	53.1%	現状値30%向上	現状値50%向上	
				資格審査員の取得者数(累計)	8名	11名	11名	
				5段位以上の取得者数(累計)	17名	20名	25名	
				コーチ1・2の取得者数(累計)	48名	68名	88名	
				女性会員向け交流会の開催	0回	女性会員の交流事業の定着	女性会員の交流事業の継続と他県との交流	
				(過去2年間) S D G sで掲げるゴールへの貢献のための活動や取り組み等の満足度	—	現状値30%向上	現状値50%向上	
		(5)	「S D G sで掲げるゴールへの貢献」を図り、持続可能な社会の実現に貢献します。	(過去2年間) S D G sで掲げるゴールへの貢献のための活動や取り組み等の満足度	—	現状値30%向上	現状値50%向上	
		9	基本施策・実施事業	基本施策		実施事業	取組指標	2022年 (現状値)
(1)	組織力の向上・推進			① 規約の見直し・改正検討	検討会議の開催数	会議3回	検討会議3回	検討会議3回・実施
				② 財政基盤の強化・構築	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施
				③ 役員・部会の役割の明確化と連携	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回・実施	検討会議3回・実施
				④ 将来を見据えた人材の発掘・育成・継承	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施
				⑤ ガバナンスコードの作成・公表	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施
				⑥ コンプライアンス教育の推進	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施
				⑦ 組織運営の情報開示の推進	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施
(2)	競技力の向上・推進			① 実施計画の策定	計画の評価	計画策定	計画推進	評価・見直し
				② 強化練習会・強化遠征の実施	県内・県外強化練習会、遠征の実施回数	0名	ジュニア7回 シニア6回	ジュニア7回 シニア6回
				③ トップアスリート(選手、形)・指導者セミナー開催	選手・指導者の技術講習会の実施回数	0回	3回	3回
				④ 地区組織を活用した強化活動の復活	地区別強化検討会議の開催数	0回	2回	2回・実施
(3)	審判力の向上・推進			① 大会審判員確保事業	加盟団体毎確保	40名	43名	46名
				② 新規受験者増加事業	有資格者確認	40名	43名	46名
				③ 講習会の充実事業	会場・時期の確認	現状確認	計画推進	見直し
				④ 他部会協力開催事業	他部会協議開始	現状確認	計画推進	見直し
(4)	普及・振興施策の推進			① 公認指導員(コーチ3)資格取得	公認指導員(コーチ3)受講者数	新規2名	若干名(新規2名)	若干名(新規2名)
				② 公認指導員(コーチ1・2)資格取得	公認指導員(コーチ1・2)講習会開催数	0回	0回	1回
				③ 段位審査会の実施(初段～三段)	段位審査会の延べ受審者数	108名	110名	120名
				④ 段位取得者合格率向上対策	段位審査会の合格率	63.9%	65.0%	75.0%
				⑤ 女性会員向け交流会	女性会員交流会の実施回数	0回	1回	2回
				⑥ 資格審査員等各種資格取得の推進	資格審査員資格の取得者数(累計)	8名	11名	11名
				⑦ 5段位以上の取得	5段位以上の取得者数(累計)	17名	18名	19名
				⑧ 部活動地域移行対策検討	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施
				⑨ 広報活動の推進	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施
(5)	S D G sで掲げるゴールへの貢献			 ・ゴール3「すべての人に健康と福祉を」:夢や希望、感動、成長等、人間力、生きる力	県内・県外強化練習会、遠征の実施回数【再掲】	0回	ジュニア7回 シニア6回	ジュニア7回 シニア6回
				 ・ゴール8「働きがいも経済成長も」:仕事、家庭、生涯スポーツ、ワークライフバランスの観点等	選手・指導者の技術講習会の実施回数【再掲】	0回	3回	3回
				 ・ゴール11「住み続けられるまちづくりを」:スポーツが続けられる持続可能な環境づくり等	公認指導員(コーチ1・2)講習会開催数【再掲】	0回	0回	1回
				 ・ゴール12「つくる責任、つかう責任」:施設や用具等、資源の有効活用の観点	段位審査会の延べ受審者数【再掲】	108名	110名	120名
				 ・ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」:県連と会員、地域や教育機関との連携等	女性会員交流会の実施回数【再掲】	0回	1回	2回

2 基本施策・実施事業

5つの基本施策

5つの基本方針を実現するために、それぞれの分野を横断的、重点的に推進する以下の5つの基本施策を設定します。

(1)	「組織力の向上・推進」を図ります。
(2)	「競技力の向上・推進」を図ります。
(3)	「審判力の向上・推進」を図ります。
(4)	「普及・振興施策の推進」を図ります。
(5)	「SDGsで掲げるゴールへの貢献」を図ります。

5つの基本施策に関連する実施事業を列挙し、それぞれの事業ごとに「取組指標」として、令和5(2023)年と令和6(2024)年の当面2年分を設定し、その後は2年分ごとに設定し直していきます。

これらの「取組指標」は、「施策指標」に寄与するものとします。

(1)「組織力の向上・推進」に関連する実施事業・取組指標

基本施策(1)「組織力の向上・推進」を図るため、以下の実施事業を計画しています。

	実施事業
①	規約の見直し・改正検討
②	財政基盤の強化・構築
③	役員・部会の役割の明確化と連携
④	将来を見据えた人材の発掘・育成・継承
⑤	ガバナンスコードの作成・公表
⑥	コンプライアンス教育の推進
⑦	組織運営の情報開示の推進

実施事業の実効性を確保するため、以下の「取組指標」を設定し各分野を横断的に重点的に取り組みます。

	取組指標	2022年 (現状値)	2023年 (1年後)	2024年 (2年後)
①	検討会議の開催数	会議3回	検討会議3回	検討会議3回・実施
②	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施
③	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回・実施	検討会議3回・実施
④	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施
⑤	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施
⑥	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施
⑦	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施

(2)「競技力の向上・推進」に関連する実施事業・取組指標

基本施策(2)「競技力の向上・推進」を図るため、以下の実施事業を計画しています。

	実施事業
①	実施計画の策定
②	強化練習会・強化遠征の実施
③	トップアスリート(組手、形)・指導者セミナー開催
④	地区組織を活用した強化活動の復活

実施事業の実効性を確保するため、以下の「取組指標」を設定し各分野を横断的に重点的に取り組みます。

	取組指標	2022年 (現状値)	2023年 (1年後)	2024年 (2年後)
①	計画の評価	計画策定	計画推進	評価・見直し
②	県内・県外強化練習会、遠征の実施回数	0名	ジュニア7回 シニア6回	ジュニア7回 シニア6回
③	選手・指導者の技術講習会の実施回数	0回	3回	3回
④	地区別強化検討会議の開催数	0回	2回	2回・実施

(3)「審判力の向上・推進」に関連する実施事業・取組指標

基本施策(3)「審判力の向上・推進」を図るため、以下の実施事業を計画しています。

	実施事業
①	大会審判員確保事業
②	新規受験者増加事業
③	講習会の充実事業
④	他部会協力開催事業

実施事業の実効性を確保するため、以下の「取組指標」を設定し各分野を横断的に重点的に取り組みます。

	取組指標	2022年 (現状値)	2023年 (1年後)	2024年 (2年後)
①	加盟団体毎確保	40名	43名	46名
②	有資格者確認	40名	43名	46名
③	会場・時期の確認	現状確認	計画推進	見直し
④	他部会協議開始	現状確認	計画推進	見直し

(4)「普及・振興力の向上・推進」に関連する実施事業・取組指標

基本施策(4)「普及・振興力の向上・推進」を図るため、以下の実施事業を計画しています。

	実施事業
①	公認指導員(コーチ3)資格取得
②	公認指導員(コーチ1・2)資格取得
③	段位審査会の実施(初段～三段)
④	段位取得者合格率向上対策
⑤	女性会員向け交流会
⑥	資格審査員等各種資格取得の推進
⑦	5段位以上の取得
⑧	部活動地域移行対策検討
⑨	広報活動の推進

実施事業の実効性を確保するため、以下の「取組指標」を設定し各分野を横断的に重点的に取り組みます。

	取組指標	2022年 (現状値)	2023年 (1年後)	2024年 (2年後)
①	公認指導員（コーチ3）受講者数	新規2名	若干名（新規2名）	若干名（新規2名）
②	公認指導員（コーチ1・2）講習会開催数	0回	0回	1回
③	段位審査会の延べ受審者数	108名	110名	120名
④	段位審査会の合格率	64%	65%	75%
⑤	女性会員交流会の実施回数	0回	1回	2回
⑥	資格審査員資格の取得者数（累計）	8名	11名	11名
⑦	5段位以上の取得者数（累計）	17名	18名	19名
⑧	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施
⑨	検討会議の開催数	会議0回	検討会議3回	検討会議3回・実施

（５）「SDGsで掲げるゴールへの貢献」に関連する実施事業

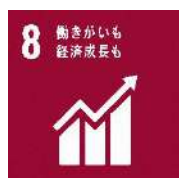
基本施策（５）「SDGsで掲げるゴールへの貢献」を図るため、実施事業を計画し、実施事業の実効性を確保するため、以下の「取組指標」を設定し各分野を横断的に重点的に取り組みます。

実施事業	取組指標	2022年 (現状値)	2023年 (1年後)	2024年 (2年後)
 ・ゴール3「すべての人に健康と福祉を」:夢や希望、感動、成長等、人間力、生きる力	県内・県外強化練習会、遠征の実施回数【再掲】	0回	ジュニア7回 シニア6回	ジュニア7回 シニア6回
 ・ゴール8「働きがいも経済成長も」:仕事、家庭、生涯スポーツ、ワークライフバランスの観点等	選手・指導者の技術講習会の実施回数【再掲】	0回	3回	3回
 ・ゴール11「住み続けられるまちづくりを」:スポーツが続けられる持続可能な環境づくり等	公認指導員（コーチ1・2）講習会開催数【再掲】	0回	0回	1回
 ・ゴール12「つくる責任、つかう責任」:施設や用具等、資源の有効活用の観点	段位審査会の延べ受審者数【再掲】	100名	110名	120名
 ・ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」:県連と会員、地域や教育機関との連携等	女性会員交流会の実施回数【再掲】	0回	1回	2回

「新潟空手ドリームプラン」とSDGs※

本ドリームプランに掲げる各種取組を着実に進めることで、県連の理念や基本方針の実現を図るとともに、SDGsで掲げる各ゴールの達成にも貢献していきます。

SDGsが掲げる17の目標のうち、本ドリームプランと関連し達成を目指すゴールは次のとおりです。



※第1章の6でも紹介しましたが、SDGs(持続可能な開発目標)とは、平成27(2015)年の「国連持続可能な開発サミット」で採択された令和12(2030)年までの世界共通の目標「Sustainable Development Goals」の略称です。

「誰一人取り残さない」持続可能なよりよい社会の実現を目指し、国をはじめ全国の地方自治体や企業等でも積極的な取り組みが進められています。

「未熟」という小さな種が

「努力」という土の中で育っていく

「成功」という光に当たり

「失敗」という水をよそながら

「後退」という虫にかまれることもあれば

「前進」という肥料をもらうこともある

ときには「苦しみ」という雨に打たれ

「挫折」という嵐に遭うだろう

しかしいつかは「喜び」という風が吹き

「成長」という春がやってくる

こうして「経験」という葉をいくつもつけ

やがて咲かせるのは

「希望」という名の

大きな花

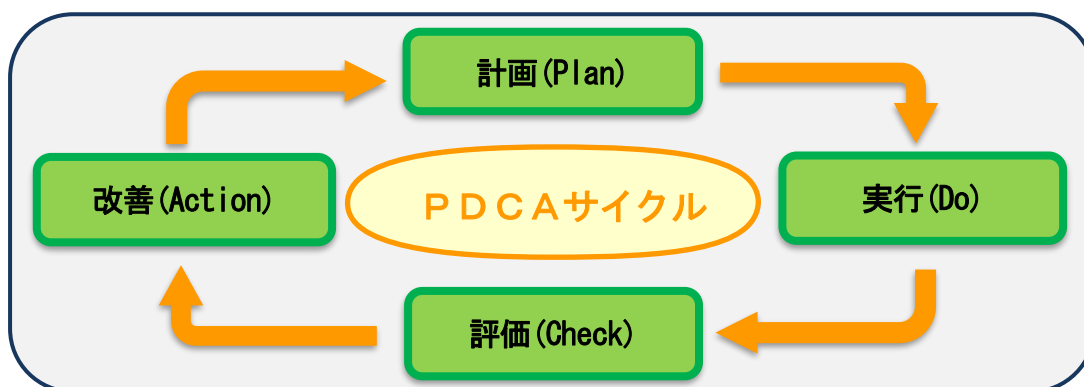


出所：平成30年度 全日本空手道連盟 雷神ジャパン活動計画より

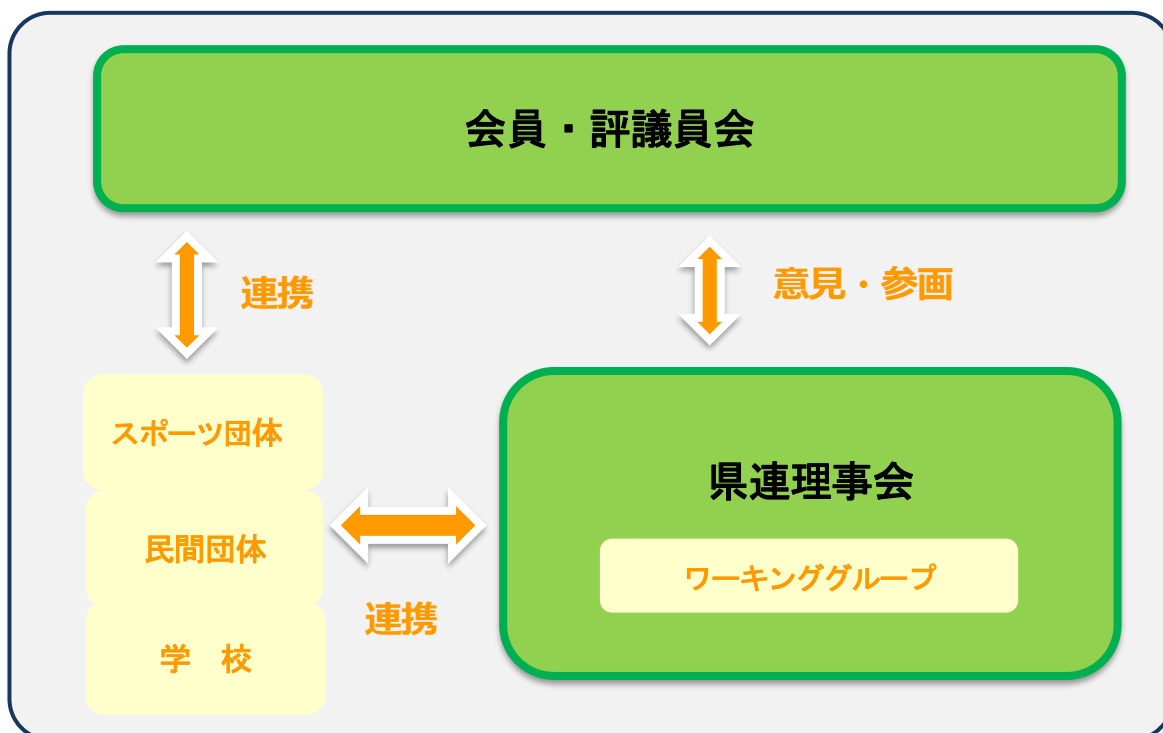
3 計画の進行管理・推進組織

本ドリームプランの進行管理に当たっては、PDCA サイクル(計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action))の考え方を基本とし、事業の継続的な改善を図ります。

また、本ドリームプランの指標や方針に掲げた項目を着実に推し進めていくために具体的な施策・事業を掲げた実施計画を策定します。



本ドリームプランの推進に当たっては、関係する団体等と連携を図るとともに、県連に「ワーキンググループ」を設置し、施策の実施状況や成果目標などを点検・評価し、計画の適切な進行管理に努めます。



第5章

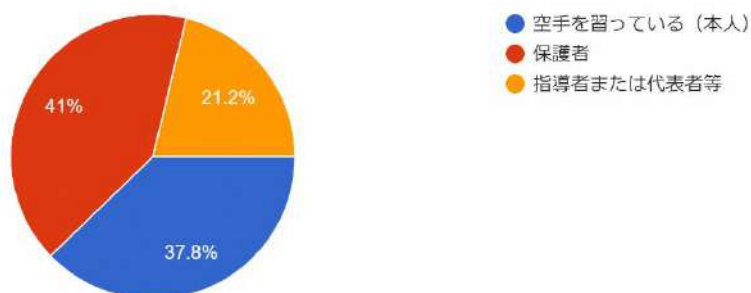
参考資料



1 会員アンケート調査の結果

○令和4年度「令和4年度新潟空手ドリームプランに関する会員アンケート調査」の結果について

Q1 あなたの所属する団体での空手との関わり方を教えてください。※会員が中学生以下の場合には、保護者が代わりに回答してください。また、保護者も習っている場合は別で回答してください(以下、同様)。339 件の回答

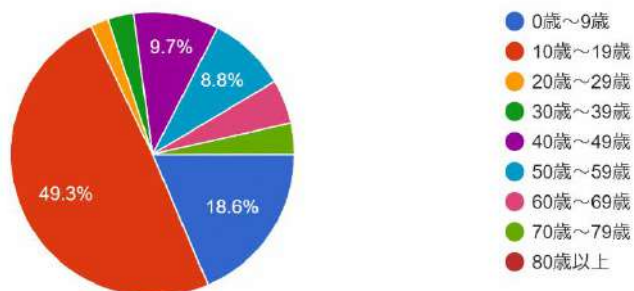


Q2 あなたの所属する団体のブロックを教えてください。339 件の回答

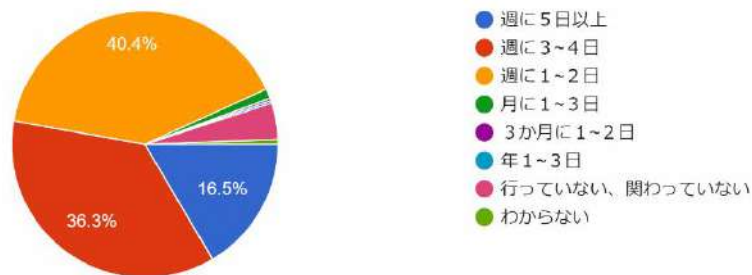


Q3 あなたの年代を教えてください。

※保護者が代わりに回答する場合でも、会員本人の年代を回答してください。339 件の回答

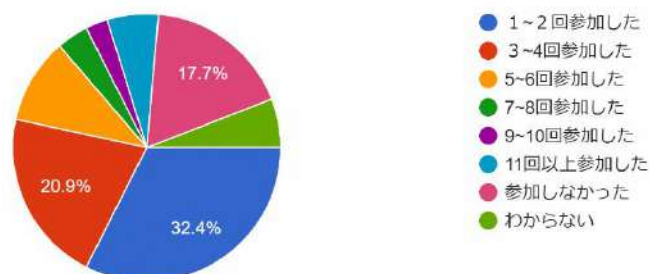


Q4 あなたは、過去2年間に空手(関連する運動やスポーツ含む)をどの程度行いましたか。 339 件の回答

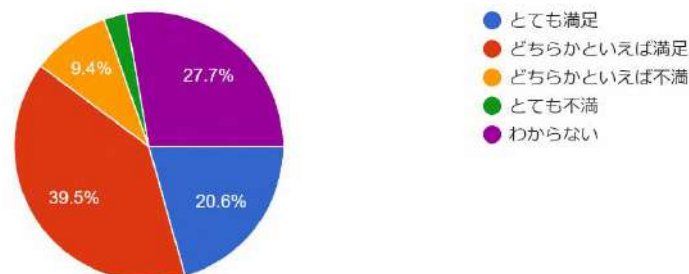


Q5 あなたは、過去2年間に県連が開催した競技力向上・推進のための上記の活動や取り組み等に何回参加しましたか。

※それぞれ空手と関わっている立場で回答してください(以下、同様)。 339 件の回答

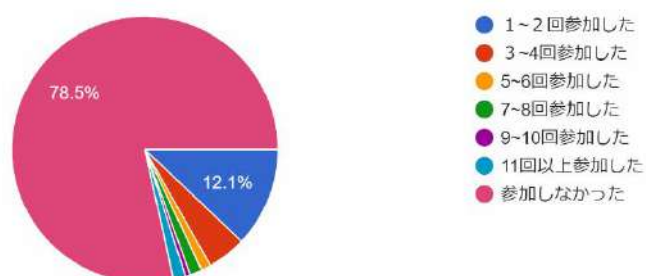


Q6 あなたは、過去2年間に県連が開催した競技力向上・推進のための上記の活動、取り組み等に満足していますか。※それぞれ空手と関わっている立場で回答してください(以下、同様)。 339 件の回答



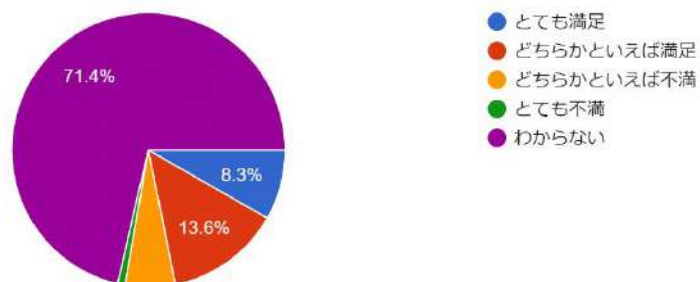
Q7 あなたは、過去2年間に県連が開催した審判力向上・推進のための上記の活動や取り組み等に何回参加しましたか。

339 件の回答

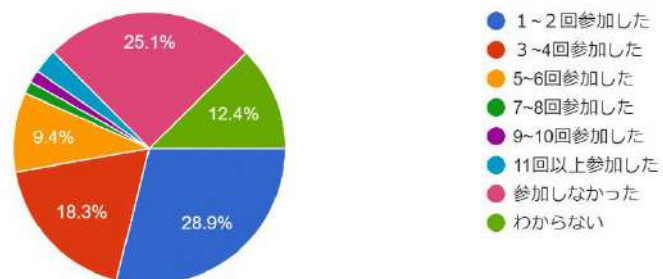


Q8 あなたは、過去2年間に県連が開催した審判力向上・推進のための上記の活動、取り組み等に満足していますか。

339 件の回答

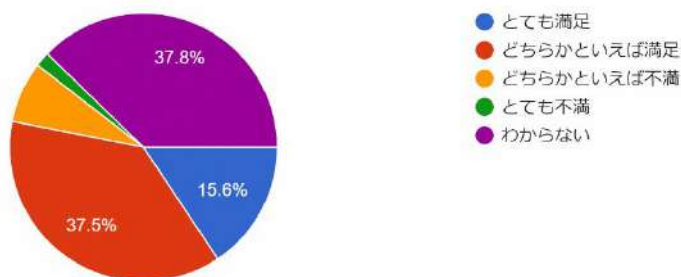


Q9 あなたは、過去2年間に県連が開催した普及・振興力向上・推進のための上記の活動や取り組み等に何回参加しましたか。 339 件の回答



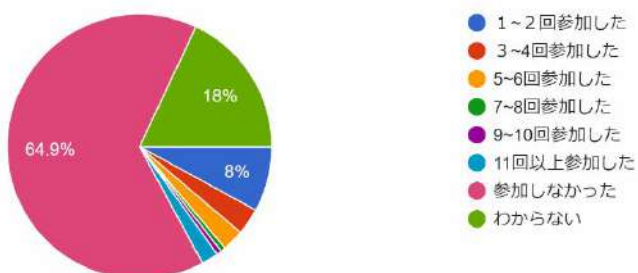
Q10 あなたは、過去2年間に県連が開催した普及・振興力向上・推進のための上記の活動、取り組み等に満足していますか。

339 件の回答



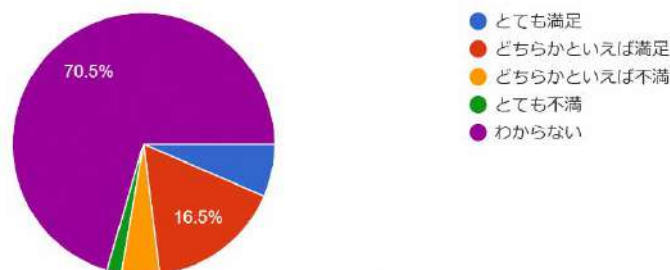
Q11 あなたは、過去2年間に県連が開催した組織力向上・推進のための上記の活動や取り組み等に何回参加しましたか。

339 件の回答



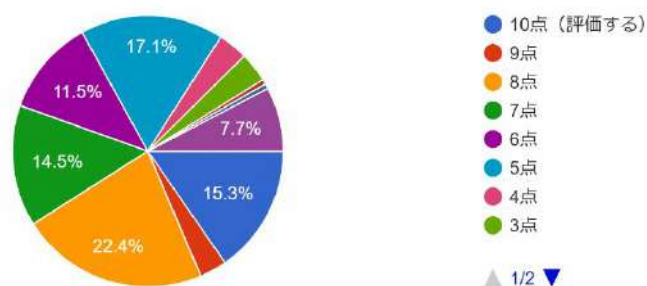
Q12 あなたは、過去2年間に県連が開催した組織力向上・推進のための上記の活動、取り組み等に満足していますか。

339 件の回答

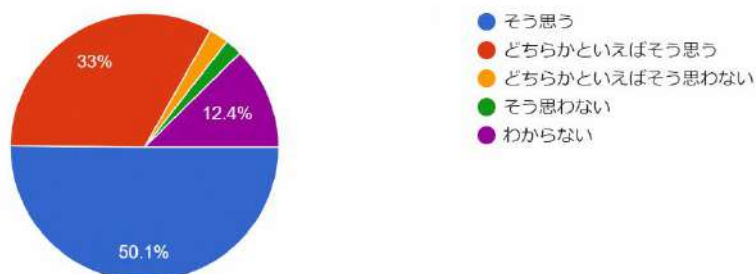


Q13 過去2年間の県連の活動全般を評価するとしたらどのくらいになりますか。

10 点(評価する)～0 点(評価しない)でお答えください。 339 件の回答



Q14 あなたは、今後も県連に所属し続けたいと思いますか。 339 件の回答



Q15 新潟空手ドリームプランの、「正式名称」および「愛称」を募集しています。あなたのご提案をお聞かせください。(正式名称例):新潟空手ドリームプラン 等 (愛称例):NKDP 等

80 件の回答 (左記から特になし、意見なし、なし 等を除く)

- ・新潟空手ドリームプラン ・NKDP
- ・ドリプラ ・新潟空手 DP
- ・空ドリ ・正式名称:新潟空手ドリームプラン 愛称:ニイカラ
- ・NKドリーマー ・空手ドリームプラン
- ・NK 夢プラン ・新潟県空手道育成プラン
- ・プランでなくプロジェクトの方が良いかと思います。 ・トキメキドリーム

- ・jkadp ・新潟県空手生き生き夢プラン
- ・仮称のとおり ・雷神ニイガタ
- ・県空連 ・キャンカラ(can) ・NKDP
- ・新潟県空手連盟プラン ・新潟県空手道連盟ドリームプラン
- ・新潟空手ドリームプラン NKDP
- ・夢キッズ空手道 ・新潟空手 D プラン
- ・この名称で良い ・K ・南万代空手道スポーツ倶楽部
- ・南万代空手道スポーツ倶楽部 ・トキめき空手レインボープラン
- ・空手トキメキプロジェクト ・(正式名称例):NIIGATA KARATE PROJECT (愛称例):NKP
- ・輝空 ・NKD
- ・(正式名称)新潟県空手ドリームプラン(愛称)NKDP ・新潟空手「夢」プラン
- ・新潟空手パワーアップ！ ・新潟空手ドリームオン
- ・新空 ・新潟空手プロジェクト
- ・未来新潟 空手プロジェクト ・(正式名)KARTE-1 プロジェクト新潟 (愛称)KPN
- ・空手やりましょう！ ・ニイカラドリーム
- ・新空 DP ・新潟空手道 極み
- ・ときっ子空手プラン ・NIIGATA KARA 手 プレミアム1
- ・新潟県空手みらい塾 ・ドリームプラン 新潟空手 ・越空夢

Q16 県連が実施している 各種事業、取り組み全般に対して、ご意見・ご要望をお聞かせください(自由記述です)。ご協力いただき誠にありがとうございました。

81 件の回答(左記から特になし、意見なし、なし 等を除く)

- ・新潟県警も段位の加点がされるように働きかけていただきたいです。
- ・県全体での強化練習をもっと開催してほしい
- ・取り組みを知らない人が多いと思うので、もっと、活動を、宣伝したりとオープンにするべきだと思います。
- ・取り組みについてよくわかっていない 中学、高校と空手部が少なく続けていけるか不安。そのため高校進学後に大会の参加もできるか、続けたいけどわからないこと、知らないことが多い
- ・空手を続けるために、さまざまな情報収集できるようなサイト、チャット機能等ができてほしい
- ・力を合わせて頑張りましょう。
- ・全国から見て、新潟県の空手レベルはとても低いと思う。県の強化練習会などを積極的に開催をし、その選手に選ばれたい、練習に参加したいなど子供のモチベーションを高めていく取り組みをした方がいいと思います。他のスポーツに比べて、そういった取り組みがとても弱いです。
- ・大会運営が面倒なのか知らないが、1 回の大会で『兼』が多すぎる。他県では全国予選と北信越予選を兼ねておらず別開催である。また近県の長野や富山と比較して、県連主催の練習会等が少ない。あっても県内上位者のみの少人数で価値が低い。
- ・練習会、セミナーの開催
- ・競技人口を増やす為に新潟県各市町村の体育施設にクラブチームのポスターを貼る。

- ・ジュニア向け等の競技のみでなく、一般向けで競技とは別の元来の武道的側面を深掘りしたような講習を企画して頂けると幸いに思います。
- ・各団体とも人数が減少し、自分のレベルに合った練習相手がいない。そのため、学年やレベルに合わせた練習会を開催してほしい(頻度を多くしてほしい)
- ・中学校の選抜大会予選をもう少し遅らせて欲しい。
- ・形のハイレベルな技術セミナーを年に複数回実施してください。
- ・強化指定選手に対する事業メニューをより充実させてください。
- ・いつもお世話になっております。いろいろと気配り頂いており助かっています。今後ともよろしくお願い申し上げます。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で事業が縮小せざる得ない2年間であり運営される県連役員の方々もご苦労されたことと思います。今回、このような全会員を対象としたアンケートは望ましいことだと思います。私個人的には、空手道を通して人としての成長が望める組織となる事を願っております。
- ・新空連の発展を願い、これからも運営されている先生方に感謝しながら微力ではありますが、協力していきたいと思います。
- ・不透明な採点競技の祭典。
- ・子供の体力作りのために始めました。姿勢や言葉遣いを改め、他校の友達との交流も経験させて頂き、大変貴重な機会を頂いております。ありがとうございます。
- ・小さい子でも空手の楽しさが伝わるセミナーなどあれば良いのではと思います。
- ・上中下越。地域毎で定期的に組手交流があるといいです。活躍されてる先生の指導を受ける機会がもっと増えるといいです。
- ・セミナーの開催
- ・昇段審査のフィードバックがないため、不合格だった際に、何をなおしたら良くなるのかが分からない。
- ・講習会等の情報が個人に伝わりにくい。個人に連絡が来るシステム作り メール登録等
- ・形の練習会をたくさんしてほしい
- ・学校の部活やクラブには無い種目ですので、大変貴重な機会と考え、子供に経験させてあげたいと思っております。ありがとうございます。
- ・ただの審判エコひいき競技と成り下がった現状を改善すべきだと思います。
- ・ジュニアの強化練習会を県連強化部主催で定期的に行なうことを希望する。
- ・県連主催で練習試合を開催してほしい。
- ・団体登録費が高すぎる。会員登録人数の少ない団体としては、負担が大きすぎます。出来る事なら、現状の半額位にしてほしいです。少年少女(小学生初心者)の大会を開催してほしいです。
- ・ホームページをもっと充実させて欲しい
- ・会員が参加しやすいイベントの開催や講習会の開催、親子で参加できる行事なども開催してほしい。
- ・全小予選の結果がそのまま北信越予選と一緒にするのはおかしい。別々の方が選手のモチベーションも上がると思う。・練習試合、合同練習が少ない。・新潟市練習会の参加道場が少ない。もっと積極的に参加するように促すべき。せっかく素晴らしい指導者がいるのにもったいない。・心配の判定(組手が)あいまい。新潟県ではC1の反則になっても、県外の大会ではポイントになる。逆に新潟県ではポイントになっても、県外では浅すぎてポイントにならない。・全国や北信越で県の代表で参加してる

のにまったくまとまりがない。・会場の室温などもう少し選手ファーストで考えてもらいたい。・いまだに下田体育館を使用する大会があるのが考えられない。暑さ、狭さ、客席の少なさ、駐車場のすくなさ。・空手はオリンピック種目からも外れて、人気の低迷が考えられると思います。もっと小さい子、裾を広げて空手を始める活動をしてほしいです。

・これからもよろしくお願いします。

・少子化と人口減の影響で空手に親しんでいる人が年々減っている。このことは前出の理由のみだけでなく、空手自体の魅力や親しみやすさにも起因するのかもしれない。道場指導者として責任を感じる場面が多くあるが、如何せん、言葉は悪いが「片手間」のボランティアとして、趣味の範囲で行っているので限界はある。半面、プロ化している道場にもいろいろな問題があるのだから、温度差がかなりあるものとする。いままで大会等でしか交流場面がないことが多かったので、合同の練習会や研修会、指導者の段位や資格取得にとどまらない勉強会など多く企画されることを期待している。国内はもとより、北信越地区でも競技力の部分ではかなり下位になってきている感がある。コンテストでの成績だけに囚われるのは本末転倒だと思うが、こだわる部分もあっていいのではないかと思う。最後に、どうしてもタイムや距離・回数等の解りやすい数値などで、第三者が納得できる評価軸が少ないのが空手である。勝ち負けや審査などもう少し説明があっていいのかもしれない。それが審判員や審査員のレベルアップや公平性につながるのではと考える。

・今後ともよろしくお願いします

・審判員指導徹底して欲しい

・強化試合をしたい

・いつもお世話になっております。コロナ対応が落ち着いてきたので、小学生、中学生を対象としたセミナーなどを開催して欲しいです。大会ももう少し開催してもらえるとモチベーションも上がります。また子どもたちが安心して競技を続けられるために中学校の部活にも認めてもらえるように県連からも働きかけをお願いできましたら、幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

・形、組手ともに有名指導者、選手を招いて技術セミナーをもっと実施してほしい(年間5回以上)

・強化指定選手だけでなく、会員である指導者と選手合わせて参加できる流派別の技術講習会をもっと実施してほしい(年会費を支払っている意義が薄い)。

・四段、五段、六段位などの取得講習会を実施してほしい。

・昨年まではコロナ過の為、大会も特別な運営でしたが今年は通常開催を望みます。指導者達が会場へ入れないと選手達の成果も見えにくいです。また選手の強化も全国大会で成果を出せるような情報や指導を希望します。選手が個人で頑張るには色々な意味で限界があると思います。

・とても満足しています。

・全少、全中予選を点数式にしてほしいです。

・各道場の横の連携で、練習会がしたい。それぞれの道場内で同じ年頃の相手が少なすぎて、練習にならない。稽古だけではなく、経験値を積みたい。

・全少、全中予選の形を点数式にしてほしいです

・年に一回でもいいので、試合に向けた形の講習会を開催してほしい。様々な道場の方々と一緒に稽古ができる機会があると、色々な面で勉強になると思う。頑張っている同年代の子どもたちを見ることが、とても良い刺激になると思う。

・大変ご苦労様です。各行事開催や各活動に良く取り組まれて頂いていると思います。

- ・行動制限があり複数人数で集まらない中、県連の先生方は大変な思いで事業をすすめてくださっていると思います。感謝申し上げます。今後も、各部会の活動を互いにリスペクトしつつ、部会を越えた協力体制がさらに強くなっていくことを期待します。各種イベントへの参加制限が無くなるか、ゆるくなることを期待します。
- ・技術力向上のために、県内の違う道場との交流や対戦などを企画して欲しい。コロナ禍で空手を始めたため、自分たちの道場以外との交流が少ない。
- ・全少予選を点数式にしてほしいです。
- ・審判力の向上。全国、北信越と新潟県のジャッジが違うように感じられる。より統一出来れば新潟県の結果もより向上するのではと思います。
- ・小中学生の大会や練習会を増やしてほしいです。
- ・審判の人間性。一部の審判ではあるが酷い。人員不足もあって大変だとは思いますが、人間性の低いレベルの低い勉強もしていない努力もしていない審判は使わないで欲しい。選手たち、子供達がかわいそう。不憫。なんのために厳しい練習に耐えているのか。一部の悲惨な審判のせいで人生を狂わされている。審判がひどすぎるのでなんとかして欲しい。良い審判もいます。その方々に期待をして願っています。
- ・HP の内容をもっと充実してほしい
- ・ルールの変更などがあったら、メールなどで早く連絡してほしい。
- ・掲げている目標は理想高く良いと思いますが抽象的でよく理解出来ません。流派の壁を越えた技術的な交流(特に形審査の基準)が行えれば良いと思います。応援しています。
- ・誰でも参加できる強化練習など。
- ・生涯スポーツとしての活動も入れていただけると嬉しいです
- ・コロナも終息して来たので、さらに積極的な活動をしてください。
- ・出来るなら形講習組手講習が大事と思います
- ・現状維持で良いと思います。
- ・県強化チーム(特に形)指導員の編成を考えたほうが良いと思います。
- ・全中大会、学校縛りではなく、せめて会で出れるようにしてほしいです。出たくても人数が揃わず、残念な思いを何回かしました。やりたくてもできない子供の気持ちはとてもやる気をなくさせると思うので、せめて会縛りにして少しでも多く、大会に出場できるような取り組みを考えてほしいと思います。
- ・審判のレベルが上がらないと新潟県か外で勝てなくなります。お気に入りの選手ではなく、真に強い選手を勝たせるべきです。

2 空手道組織構成

空手道の組織構成について以下に示します。(出所：JKF 組織図 2021 全日本)



公益財団法人 全日本空手道連盟／組織構成図



3 県連ワーキンググループメンバー

任期：令和4年12月9日～令和5年3月31日

No	氏 名	役 職 等
1	相沢 勇	常任理事・段位指導部長
2	石村 秀一	理事・総務部
3	遠藤 清	理事・強化部
4	加藤 舞	理事・強化部
5	河合 絵美	理事・強化部
6	木田 義一	理事・強化部
7	小泉 求	一般会員
8	佐伯 進	副理事長・審判部
9	田辺 良文	副理事長・企画調整部長
10	中村 穂乃香	理事・審判部
11	野水 雄二	理事・事務局次長・事業部
12	林 晃	理事長
13	古川 哲也	副理事長・強化部長
14	星野 康夫	常任理事・審判部長
15	前田 政志	副理事長・事務局長・事業部
16	丸山 豊	高空部長
17	山崎 行男	常任理事・総務部長
18	湯田 謙太郎	高空部

※五十音順

4 県連役員名簿

任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日

役 職 等	氏 名
会 長	野沢 慎吾
特別顧問	山本 正治
特別顧問	桜井 甚一
顧 問	金谷 國彦
相 談 役	市橋 拓三
参 与	小泉 智
参 与	猪股 弘治
参 与	本間 文祐
理事長	林 晃
副理事長・事業部長	佐藤 松一
副理事長・企画調整部長	田辺 良文
副理事長・事務局長	前田 政志
副理事長	佐伯 進
副理事長・強化部長	古川 哲也
常任理事・段位指導部長	相沢 勇
常任理事・総務部長	山崎 行男
常任理事	原 正博
常任理事・審判部長	星野 康夫
理事・事務局次長	野水 雄二
理事	長谷川貞文
理事	山田 勉
理事	木田 義一
理事	石村 秀一
理事	加藤 舞
理事	河合 絵美
理事	遠藤 清
理事	荒木 則芳
理事	渡邊 昇
理事	中村穂乃香
理事	刈谷 和弘
監事	西村 修市
監事	高木 茂明

5 県連所属団体名簿

令和4年11月17日現在				
ブロック	該当市町村	団 体 名	代表者名	評議員名
A	下越地区(Aブロック) 村上市・聖籠町・阿賀野市 新発田市・五泉市・胎内市 阿賀町・関川村・粟島浦村	水空会	高木 健	高木 健
		研武会	青木 洋子	長沢 芳洋
		村上空手道研究会	東 三喜男	中村慎一郎
		修正会	山田 勉	田中 俊哉
		新発田空手道会	小泉 智	木内 尚美
		五泉空手道会	地濃 豊実	地濃 豊実
		拳照会	井上 勝之	井上 勝之
		拳神会	高木 智	高木 智
		拳正館	渡辺 和徳	渡辺 和徳
		新拳館空手道教室	佐伯 将	中野 由敬
		新津空手道会	間 順一	阿部 俊幸
		小須戸空手道会	稲垣 信一	井本 和夫
		白山空手道会	市橋 拓三	田中 浩
B	新潟・佐渡地区(Bブロック) 新潟市・佐渡市	南万代空手道倶楽部	佐々木慎一	阿部 雅治
		西川空手道会	内藤 仁	高木 茂明
		巻空手道会	八田 入寛	服部 和彦
		佐和田空手道会	本間 康博	本間 康博
		飛空会	本間 豊	本間 豊
		新潟大学医学部	木田 義一	佐川 善紀
		新空会	湯田謙太郎	湯田謙太郎
		空手道 新潟西少年団	外山 明良	佐藤 環
		佐渡空友会	渡辺 昇	渡辺 敏徳
		白鷹会	林 昇	入山 定治
		江風会	宮嶋 純雄	宮嶋 純雄
		新潟第一中学校	藤澤 健一	薄田比登美
		慶雲会	木田 義一	中丸 精一
		亀田空手道会	入山 渉	入山 渉
		三条大崎空手道会	野水 雄二	永井 康宏
		見附空手道会	駒形 清司	石黒 浩史
C	県央地区(Cブロック) 三条市・加茂市・田上町 見附市・燕市・弥彦村	下田空手道会	前田 政志	高野 孝栄
		燕真空手塾	田辺 良文	田辺 良元
		加茂空手道会	船久保幸夫	船久保幸夫
		吉田空手道会	山崎 行男	遠藤 健
		新潟県立燕中等教育学校	市野 正廣	横山 茂
		弥彦空手道会	木原 孝夫	阿部 暢彦
		分水空手道会	菅原 俊治	菅原 俊治
		田上空手道クラブ	泉田 武正	泉田 武正
		真和会	山川 智之	山川 智之
		空美会	高山 茂和	高山 茂和
D	長岡地区(Dブロック) 長岡市・小千谷市・刈羽村 柏崎市・出雲崎町	輝風空手塾	遠藤 清	遠藤 才子
		栃尾空手道会	小林 匠	小林 匠
		日本空手道空和会新潟県本部	伊部 春夫	大矢 規之
		光武会長岡	吉井 義則	黒崎 健一
		新瀧館長岡	市川 政保	市川 政保
		小千谷空手道会	小林 光紀	小林 誠
		与板空手道会	モハメッドヌルエルエラヒ	エラヒ美砂子
		聖武会	井上 勝幸	井上 勝幸
		明心会	中村 正一	中村 正一
		一真塾	庭山 義孝	庭山 義孝
		長岡神武会	長谷川貞文	河内 武彦
		悠空会	菊地たか子	水澤 元博
		閑空館	今井 圭一	今井 圭一
		系魚川空手道会	赤石 健二	柳澤 篤志
		水翔塾	山崎 哲嗣	山崎 哲嗣
E	上越地区(Eブロック) 上越市・十日町市・魚沼市 南魚沼市・妙高市・湯沢町 糸魚川市・津南町	中郷空手道会	古川 哲也	古川 優
		直心会	齋藤 隆雄	秋山 実和
		専心會空手塾	岡部 学	岡部 学
		高田空手道会	青山 哲	青山 哲
		妙高市空手協会 誠空会	金澤 実	金澤 実
		十日町空手道協会	西野 弘幸	西野 弘幸
		水上空手道会	小林 吉幸	小林 吉幸
		松風会	相沢 勇	小堺 悟
		糸空会	猪又 克寛	青代 建一
		高体連	遠藤 浩	丸山 豊

順不同

「新潟空手ドリームプラン」

令和5(2023)年3月

編集・発行

新潟県空手道連盟

<https://www.jkf-niigata.net/>



新潟県空手道連盟